

2008年度事業報告書

財団法人 武田科学振興財団

I. 事業の状況

当財団の2008年度の各事業は、計画に沿って着実に実施した。

本年度は、研究助成事業では、財団設立45周年を記念して「武田報彰医学研究助成」を創設したのをはじめ、近年創設した新規助成プログラム〔特定研究助成、シンポジウム研究奨励、杏雨書屋研究奨励、高等学校理科教育振興奨励、継続助成（医学系研究奨励、薬学系研究奨励の交付者を対象）〕の充実・定着を図った。

さらに研究助成事業充実のため、生命科学研究助成は、2008年度より公募方式に変更するとともに15件に増件した。医学系研究奨励〔基礎系、臨床系〕・特定研究助成Ⅱ〔精神疾患・脳疾患〕については、応募数の増加に伴い、採択率25%を目途に増件し、医学系研究奨励基礎系・臨床系の計画は前年度の各25件からそれぞれ、40件程度、35件程度に変更し、特定研究助成Ⅱの計画は前年度の10件から20件程度に変更した。

外国人留学研究者支援事業では、ベトナムにおける本事業の開始10周年を記念して現地で記念行事を行い、杏雨書屋事業では、開館30周年を記念して特別講演会・特別展示会を開催した。

12月1日には、新公益法人制度改革関連3法が施行された。公益財団法人への移行認定申請に向け、最初の評議員の選任、申請書類に添付する定款等の諸規程の改定等を行った。

(1) 科学技術に関する研究機関及び科学技術の研究に従事する者に対する奨励金の交付 (研究助成金等)

- ① 武田報彰医学研究助成は、理事、評議員、名誉顧問、武田医学賞選考委員、武田医学賞受賞者、学士院会員〔第7分科〕、学士院賞受賞者〔1999年以降医学関連〕の80名から推薦された、研究室立上げ3年未満の新進医学系研究者を対象に、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、1件3,000万円5件 計1億5,000万円を交付した。
- ② 生命科学研究助成は、生命科学分野の研究者を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、1件1,000万円15件 計1億5,000万円を交

付した。

- ③ 一般研究奨励は、生命科学分野の新進研究者を対象に、12 大学*に候補者の推薦を依頼し、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、各大学共 3 件、計 36 件を決定し、1 件 200 万円 計 7,200 万円を交付した。

*対象 12 大学：北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、
大阪大学、九州大学、琉球大学、慶應義塾大学、順天堂大学、
東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学

- ④ 医学系研究奨励は、医学系の新進研究者を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、基礎系研究 49 件、臨床系研究 33 件を決定し、1 件 200 万円 計 1 億 6,400 万円を交付した。継続助成は、本研究奨励の 2006 年度被助成者を対象に実施した。所定の継続助成交付申込書をもとに、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、基礎系研究 5 件、臨床系研究 6 件を決定し、1 件 300 万円 計 3,300 万円を交付した。

- ⑤ 薬学系研究奨励は、薬学系の新進研究者を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、40 件（うち 10 件は生薬学分野）を決定し、1 件 200 万円 計 8,000 万円を交付した。継続助成は、本研究奨励の 2006 年度被助成者を対象に実施した。所定の継続助成交付申込書をもとに、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ 5 件を決定し、1 件 300 万円 計 1,500 万円を交付した。

- ⑥ 報彰基金事業は、循環系疾患および糖尿病を克服するための研究を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、次の通り交付した。

- ・研究助成金として 1 件 1,000 万円 を 5 件 計 5,000 万円
- ・研究奨励金として 1 件 500 万円を 5 件、1 件 200 万円を 27 件 計 7,900 万円
- ・研究会等の開催支援金として 1 件 100 万円
- ・報彰基金研究奨励交付者(2004 年度～2006 年度交付者)を対象とした継続助成として 1 件 300 万円を 22 件 計 6,600 万円

報彰基金の交付総額は、1 億 9,600 万円となった。

- ⑦ 特定研究助成は、前年同様、研究機関を対象として、本邦の医学の発展に寄与する研究を対象に公募を行ない、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、1 件 5,000 万円 交付件数 12 件 総額 6 億円を交付した〔特定研究助成〔I〕2008〕。研究者を対象として、精神疾患・脳疾患に関する研究を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、1 件 100 万円～500 万円 交付件数 20 件

総額 4,000 万円を交付した〔特定研究助成〔Ⅱ〕2008〕。

特定研究助成の交付総額は、6 億 4,000 万円となった。

- ⑧ シンポジウム研究奨励は、第 15 回生命科学シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、シンポジウム組織委員で構成する選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、研究奨励金として 1 件 50 万円 4 件 計 200 万円を交付した。
- ⑨ 高等学校理科教育振興奨励は、全国の高等学校およびそれに準ずる教育機関を対象として実施した。高等学校理科教育に対し大きく貢献すると考えられる教育研究・実践を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、振興奨励金として 1 件 30 万円 27 件 計 810 万円を交付した。
- ⑩ 杏雨書屋研究奨励は、杏雨書屋所蔵資料に関連する研究を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、研究奨励金として 1 件 50 万円 5 件 計 250 万円を交付した。

以上により、研究助成の総額は 15 億 1,260 万円（対前年度実績 3 億 1,320 万円増）となり、交付件数は 322 件（対前年度 47 件増）となった。本年度も「武田科学振興財団研究助成金・奨励金贈呈式」を 11 月 12 日に実施し、255 名の出席があった。

(2) 外国人留学生に対する研究の補助(留学支援)

日本において医学・医療の分野で研究する外国人留学研究者に対する支援を行った。本年度は、7 指定国より 40 名、その他の国より 3 名、合計 43 名の留学生が来日し、留学研究補助費として総額 1 億 158 万円を交付した。

なお、1964 年度に本事業を開始して以来、2009 年 3 月末までに支援した外国人留学研究者の総数は 32 カ国から 1,194 名である。

本年度に来日した支援外国人留学研究者数は次ページの通りである。

<2009年3月31日現在(来日ベース)>

| 国 別 | 年度計画 (人数) | 実 績 (人 数) | | | | 備 考 |
|------------|--------------|-----------|------------|------------|----|----------------------------------|
| | | 本年度 | 前年度 繰 越 | 次年度 繰 上 | 計 | |
| 台 湾 | 6 | 5 | 0 | 2 | 7 | 本年度の1名が未来日。次年度の2名が繰上げ来日。 |
| タ イ | 6 | 6 | 0 | 0 | 6 | |
| フィリピン | 4 | 2 | 0 | 0 | 2 | 本年度の2名が未来日。 |
| 韓 国 | 3 | 1 | 0 | 1 | 2 | 本年度の2名が前年度に繰上げ来日済み。次年度の1名が繰上げ来日。 |
| 中 国 | 10 | 10 | 2 | 2 | 14 | 前年度の2名が繰越し来日。次年度の2名が繰上げ来日。 |
| インドネシア | 5 | 5 | 0 | 0 | 5 | |
| ベトナム | 4 | 4 | 0 | 0 | 4 | |
| 7指定国 小計 | 38 | 33 | 2 | 5 | 40 | |
| 上記7指定国以外 | 12 | 3 | 0 | 0 | 3 | 本年度は6名承認、2名が辞退、1名が前年度に繰上げ来日済み。 |
| 総 計 | 50 | 36 | 2 | 5 | 43 | |

本年度は、12月にベトナムのホーチミン市およびハノイ市を訪問し、選考委員と現地での公募・選考方法および今後の運営改善に向けた意見交換を実施すると共に、過去の留学研究者を招いて同国における本事業の10周年記念行事を開催した。現在、ホーチミン市とハノイ市の2箇所で開催している留学研究者の選考を、2010年度からはハノイ市のベトナム医師会に一本化することを決定した。

(3) 科学技術に関する注目すべき研究業績に対する褒賞(武田医学賞)

7月3日開催された選考委員会において、10件10名の候補者につき9名の選考委員による慎重かつ公正な選考の結果、医学界において顕著な業績を挙げられた3件3名(次ページ参照)の褒賞を決定し、理事会の承認を得た。

受賞者には、11月12日(水)開催の贈呈式において、武田医学賞(賞状と賞牌と盾)および副賞(1件1,500万円)をそれぞれ贈呈した。

藤原 哲郎 博士

現 職：岩手医科大学 名誉教授

対象研究業績：新生児呼吸窮迫症候群の治療法の確立

宮園 浩平 博士

現 職：東京大学 教授

対象研究業績：TGF- β ファミリーのシグナル伝達とヒト疾患に関する研究

山中 伸弥 博士

現 職：京都大学 教授

対象研究業績：多能性幹細胞の維持と誘導

(4) 科学技術の振興に関する出版物の刊行（出版）

6月に「杏雨書屋」図書館開設30周年記念出版物として、「杏雨書屋所蔵 医家肖像集」600部を発行した。また同月に、機関誌「杏雨」11号を発行した。

2009年3月には「香要抄二」200部、「敦煌秘笈 目録冊」250部を発行した。

(5) 東洋医書その他図書資料の保管、整理及び公開（杏雨書屋の運営）

①保管・整理

複写179,037枚、複写製本1,552冊、補修82冊を行った。

②公 開

閲覧者は316名（閲覧図書1,247部 4,746冊）、複写依頼は71名（複写部数162部、5,075枚）、展示室見学者は687名（特別展示会を含む）であった。

春季特別展示会は開館30周年記念展示会を4月14日（月）～20日（日）の間、財団2階展示室にて開催した（見学者381名）。

秋季特別展示会は10月27日（月）～11月1日（土）の間、「杏雨書屋の洋書」をテーマに開催した（見学者95名）。

③研究会

1)開館30周年記念講演会「杏雨書屋の30年」を以下の通り行った。

演題：杏雨書屋所蔵 磧砂版大藏經の刊記

講演者：古泉圓順氏 所属 四天王寺国際仏教大学 名誉教授

演題：日本の化学を創めた宇田川榕菴と杏雨蔵書

講演者：芝 哲夫氏 所属 大阪大学 名誉教授

演題：「水谷本草」とアジアの進化論

講演者：宮下三郎氏 所属 杏雨書屋 元副館長

日時：4月19日(土) 15:00～18:30

場所：リーガロイヤルホテル(大阪) 3F ロイヤルホール

参加人員：243名

2) 第22回研究会を以下の通り行った。

演題：江戸時代の薬物辞典 レキシコンとドロゲレイン

講演者：松田 清氏 所属 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授

演題：エドワード・ジェンナーと牛痘種痘法

講演者：松木明知氏 所属 弘前大学 名誉教授

日時：11月1日(土) 13:00～15:00

場所：ヒルトン大阪 5F 桜山

参加人員：103名

④稀覯本購入

松本文庫 207点

一神論・序聴迷詩所経

曲直瀬道三自筆「啓迪集巻第一・二」

森鷗外書簡一卷

ベルセリウス「化学教書」(蘭訳版)

ユスタキウス「解剖図表」(蘭訳版)

(6) 科学技術の研究を助成振興する目的を達成するために必要な事業(シンポジウム)

第15回 武田科学振興財団生命科学シンポジウム The 15th Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience を開催した。

テーマ：「細胞死研究の現在と未来」

Cell Death: What have we learned and what will we learn?

組織委員：田中 啓二 博士 東京都臨床医学総合研究所 所長代行

西道 隆臣 博士 理化学研究所 チームリーダー

三浦 正幸 博士 東京大学 教授

講演：20名（国内9名、国外11名）

ポスター発表（公募：26件）

会期：2008年12月2日（火）～3日（水）

場所：シェラトン都ホテル東京

参加者：177名

研究奨励金の交付：国内の若手研究者支援を目的にポスター発表者の中から組織委員を選考委員として優秀研究を4件選び、1件50万円、計200万円を交付した。

(7) 特定費用準備資金の計上

研究助成事業の拡大に備えて、特定費用準備資金として11億円を計上した。

(8) 公益財団法人への移行

新公益法人制度改革関連3法が12月1日に施行された。当財団では、施行と同時に「最初の評議員の選任」方法につき主務官庁に認可申請を行い、本年2月5日に認可を得た後、2月13日に評議員選定委員会を開き最初の評議員14名を選任した。また3月12日には、理事会・評議員会を開催し、申請書類に添付する定款等の諸規程の改定につき承認を得た。公益財団法人への移行申請書は、2009年5月に内閣総理大臣宛に提出する。

以 上

貸借対照表

(2009年3月31日現在)

財団法人 武田科学振興財団

(円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|---------------|------------------|------------------|-----------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 399,260,607 | 296,950,374 | 102,310,233 |
| 立替金 | 1,493,697 | 493,150 | 1,000,547 |
| 前払費用 | 1,250,000 | 3,746,070 | -2,496,070 |
| 未収入金 | 0 | 31,869 | -31,869 |
| 流動資産合計 | 402,004,304 | 301,221,463 | 100,782,841 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 現金預金 | 3,192,792 | 93,305,246 | -90,112,454 |
| 投資有価証券 | 54,267,880,934 | 78,515,103,480 | -24,247,222,546 |
| 基本財産合計 | 54,271,073,726 | 78,608,408,726 | -24,337,335,000 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 報彰基金 | 0 | 212,467,095 | -212,467,095 |
| 助成基金 | 13,212,444,595 | 17,354,960,635 | -4,142,516,040 |
| 杏雨基金 | 231,490,058 | 231,490,058 | 0 |
| 特定費用準備資金 | 1,100,000,000 | 0 | 1,100,000,000 |
| 特定資産合計 | 14,543,934,653 | 17,798,917,788 | -3,254,983,135 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 什器備品 | 1,378,490 | 1,860,046 | -481,556 |
| 図書資料 | 1,881,263,763 | 1,745,176,263 | 136,087,500 |
| その他固定資産合計 | 1,882,642,253 | 1,747,036,309 | 135,605,944 |
| 固定資産合計 | 70,697,650,632 | 98,154,362,823 | -27,456,712,191 |
| 資産合計 | 71,099,654,936 | 98,455,584,286 | -27,355,929,350 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払費用 | 5,447,534 | 4,544,082 | 903,452 |
| 預り金 | 3,419,337 | 2,250,140 | 1,169,197 |
| 流動負債合計 | 8,866,871 | 6,794,222 | 2,072,649 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 役員退職慰労引当金 | 3,925,000 | 2,375,000 | 1,550,000 |
| 退職給付引当金 | 3,267,000 | 0 | 3,267,000 |
| 固定負債合計 | 7,192,000 | 2,375,000 | 4,817,000 |
| 負債合計 | 16,058,871 | 9,169,222 | 6,889,649 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 受贈投資有価証券 | 52,042,100,000 | 76,379,435,000 | -24,337,335,000 |
| 指定正味財産合計 | 52,042,100,000 | 76,379,435,000 | -24,337,335,000 |
| (うち基本財産への充当額) | (52,042,100,000) | (76,379,435,000) | -24,337,335,000 |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| (うち基本財産への充当額) | (19,041,496,065) | (22,066,980,064) | -3,025,483,999 |
| (うち特定資産への充当額) | (2,228,973,726) | (2,228,973,726) | 0 |
| (うち特定資産への充当額) | (14,543,934,653) | (17,798,917,788) | -3,254,983,135 |
| 正味財産合計 | 71,083,596,065 | 98,446,415,064 | -27,362,818,999 |
| 負債及び正味財産合計 | 71,099,654,936 | 98,455,584,286 | -27,355,929,350 |

正味財産増減計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

財団法人 武田科学振興財団

(円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|--------------|---------------|---------------|-------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 2,654,152,469 | 2,348,294,899 | 305,857,570 |
| 受取配当金 | 2,632,718,000 | 2,326,588,000 | 306,130,000 |
| 公社債受取利息 | 21,405,410 | 21,706,899 | -301,489 |
| その他受取利息 | 29,059 | 0 | 29,059 |
| 特定資産運用益 | 485,493,454 | 425,256,086 | 60,237,368 |
| 受取配当金 | 448,121,232 | 396,014,112 | 52,107,120 |
| 公社債受取利息 | 35,463,746 | 29,147,498 | 6,316,248 |
| その他受取利息 | 1,908,476 | 94,476 | 1,814,000 |
| 受取寄付金 | 553,000 | 2,347,000 | -1,794,000 |
| 雑収益 | 1,470 | 29,340 | -27,870 |
| 経常収益計 | 3,140,200,393 | 2,775,927,325 | 364,273,068 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 研究助成事業費 | 1,561,757,695 | 1,241,248,346 | 320,509,349 |
| 武田報彰医学研究助成金 | 150,000,000 | 0 | 150,000,000 |
| 報彰基金研究奨励金 | 196,000,000 | 189,000,000 | 7,000,000 |
| 報彰基金付随費 | 5,310,989 | 4,024,000 | 1,286,989 |
| 生命科学研究助成金 | 150,000,000 | 70,000,000 | 80,000,000 |
| 一般研究奨励金 | 72,000,000 | 74,000,000 | -2,000,000 |
| 医学系研究奨励金 | 197,000,000 | 138,000,000 | 59,000,000 |
| 薬学系研究奨励金 | 95,000,000 | 82,000,000 | 13,000,000 |
| 特定研究助成金 | 640,000,000 | 635,000,000 | 5,000,000 |
| シンポジウム研究奨励金 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 |
| 高校理科教育振興奨励金 | 8,100,000 | 6,900,000 | 1,200,000 |
| 杏雨書屋研究奨励金 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 |
| 付随費 | 43,846,706 | 37,824,346 | 6,022,360 |
| 外国人留学生支援事業費 | 109,690,515 | 91,723,293 | 17,967,222 |
| 研修補助金 | 101,584,316 | 81,152,290 | 20,432,026 |
| 付随費 | 8,106,199 | 10,571,003 | -2,464,804 |
| 武田医学賞褒賞事業費 | 59,988,785 | 58,480,265 | 1,508,520 |
| 褒賞金 | 45,000,000 | 45,000,000 | 0 |
| 付随費 | 14,988,785 | 13,480,265 | 1,508,520 |
| 杏雨書屋運営事業費 | 127,336,778 | 99,186,310 | 28,150,468 |
| 研究調査費 | 6,623,946 | 6,787,453 | -163,507 |
| 運営協議会費 | 1,526,487 | 1,685,698 | -159,211 |
| 展示・研究会費 | 4,189,419 | 3,614,386 | 575,033 |
| 出版費 | 31,559,100 | 46,302,754 | -14,743,654 |
| 図書保管費 | 49,549,127 | 36,744,301 | 12,804,826 |
| 図書費 | 1,164,073 | 661,100 | 502,973 |

| | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 消耗什器備品費 | 804,783 | 995,085 | -190,302 |
| 開館30周年費 | 29,421,322 | 0 | 29,421,322 |
| 付随費 | 2,498,521 | 2,395,533 | 102,988 |
| シンポジウム事業費 | 33,290,993 | 33,406,273 | -115,280 |
| 開催費 | 32,578,476 | 32,184,993 | 393,483 |
| 準備費 | 712,517 | 1,221,280 | -508,763 |
| 管理費 | 131,103,586 | 124,566,846 | 6,536,740 |
| 役員報酬 | 21,868,000 | 22,505,000 | -637,000 |
| 給料手当 | 44,283,779 | 42,167,962 | 2,115,817 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 1,550,000 | 1,575,000 | -25,000 |
| 退職給付費用 | 3,267,000 | 0 | 3,267,000 |
| 福利厚生費 | 9,311,367 | 8,624,543 | 686,824 |
| 会議費 | 3,370,010 | 5,443,818 | -2,073,808 |
| 旅費交通費 | 1,538,309 | 1,279,339 | 258,970 |
| 通信運搬費 | 3,226,632 | 2,863,017 | 363,615 |
| 減価償却費 | 481,556 | 500,254 | -18,698 |
| 消耗什器備品費 | 438,805 | 977,922 | -539,117 |
| 広報費 | 4,869,360 | 1,418,260 | 3,451,100 |
| 光熱費 | 1,050,187 | 1,050,561 | -374 |
| 事務所賃借料 | 28,123,200 | 28,123,200 | 0 |
| 事務用品費 | 3,626,546 | 4,965,416 | -1,338,870 |
| 会計監査報酬 | 1,575,000 | 945,000 | 630,000 |
| 雑費 | 2,523,835 | 2,127,554 | 396,281 |
| 特定資産評価損 | 4,142,516,040 | 7,138,675,440 | -2,996,159,400 |
| 経常費用計 | 6,165,684,392 | 8,787,286,773 | -2,621,602,381 |
| 当期経常増減額 | -3,025,483,999 | -6,011,359,448 | 2,985,875,449 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | -3,025,483,999 | -6,011,359,448 | 2,985,875,449 |
| 一般正味財産期首残高 | 22,066,980,064 | 28,078,339,512 | -6,011,359,448 |
| 一般正味財産期末残高 | 19,041,496,065 | 22,066,980,064 | -3,025,483,999 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 基本財産評価損 | 24,337,335,000 | 41,939,810,000 | -17,602,475,000 |
| 当期指定正味財産増減額 | -24,337,335,000 | -41,939,810,000 | 17,602,475,000 |
| 指定正味財産期首残高 | 76,379,435,000 | 118,319,245,000 | -41,939,810,000 |
| 指定正味財産期末残高 | 52,042,100,000 | 76,379,435,000 | -24,337,335,000 |
| III 正味財産期末残高 | 71,083,596,065 | 98,446,415,064 | -27,362,818,999 |

キャッシュ・フロー計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

財団法人 武田科学振興財団

(円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|----------------------|----------------|----------------|--------------|
| I 事業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | |
| 基本財産運用収入 | 2,654,152,469 | 2,345,515,462 | 308,637,007 |
| 配当金収入 | 2,632,718,000 | 2,326,588,000 | 306,130,000 |
| 公社債利息収入 | 21,405,410 | 18,927,462 | 2,477,948 |
| その他利息収入 | 29,059 | 0 | 29,059 |
| 特定資産運用収入 | 485,493,454 | 419,023,900 | 66,469,554 |
| 配当金収入 | 448,121,232 | 396,014,112 | 52,107,120 |
| 公社債利息収入 | 35,463,746 | 22,915,312 | 12,548,434 |
| その他利息収入 | 1,908,476 | 94,476 | 1,814,000 |
| 寄付金収入 | 553,000 | 2,347,000 | -1,794,000 |
| 雑収入 | 1,470 | 29,340 | -27,870 |
| 事業活動収入計 | 3,140,200,393 | 2,766,915,702 | 373,284,691 |
| 2. 事業活動支出 | | | 0 |
| 研究助成事業支出 | 1,561,757,695 | 1,241,248,346 | 320,509,349 |
| 外国人留学生支援事業支出 | 107,940,515 | 92,023,293 | 15,917,222 |
| 武田医学賞褒賞事業支出 | 59,988,785 | 58,480,265 | 1,508,520 |
| 杏雨書屋運営事業支出 | 126,590,708 | 99,444,810 | 27,145,898 |
| シンポジウム事業支出 | 33,290,993 | 33,406,273 | -115,280 |
| 管理費支出 | 124,869,709 | 125,454,220 | -584,511 |
| その他の事業活動支出 | -168,650 | -1,281,804 | 1,113,154 |
| 事業活動支出計 | 2,014,269,755 | 1,648,775,403 | 365,494,352 |
| 事業活動によるキャッシュ・フロー | 1,125,930,638 | 1,118,140,299 | 7,790,339 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | 0 |
| 1. 投資活動収入 | | | 0 |
| 特定資産取崩収入 | 212,467,095 | 194,000,000 | 18,467,095 |
| 投資活動収入計 | 212,467,095 | 194,000,000 | 18,467,095 |
| 2. 投資活動支出 | | | 0 |
| 特定資産取得支出 | 1,100,000,000 | 1,300,976,000 | -200,976,000 |
| 固定資産取得支出 | 136,087,500 | 26,250,000 | 109,837,500 |
| 投資活動支出計 | 1,236,087,500 | 1,327,226,000 | -91,138,500 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | -1,023,620,405 | -1,133,226,000 | 109,605,595 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | 0 |
| 1. 財務活動収入 | | | 0 |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 財務活動支出 | | | 0 |
| 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | 0 |
| IV 現金及び現金同等物の増減額 | 102,310,233 | -15,085,701 | 117,395,934 |
| V 現金及び現金同等物の期首残高 | 266,950,374 | 282,036,075 | -15,085,701 |
| VI 現金及び現金同等物の期末残高 | 369,260,607 | 266,950,374 | 102,310,233 |

(注1) 資金の範囲には、現金及び現金同等物を含めている。
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 当年度 (円) | 前年度 (円) | 増減 (円) |
|------------------|-------------|-------------|-------------|
| 現金預金勘定 | 399,260,607 | 296,950,374 | 102,310,233 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | -30,000,000 | -30,000,000 | 0 |
| 現金及び現金同等物 | 369,260,607 | 266,950,374 | 102,310,233 |

(注2) 重要な非資金取引はない。

財 産 目 録

(2009年3月31日現在)

財団法人 武田科学振興財団

(円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|----------------------------|----------------|----------------|----------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 399,260,607 | | |
| 現金手許有高 | 610,256 | | |
| 普通預金(住友信託銀行：本店営業部) | 349,158,579 | | |
| 普通預金(三菱東京UFJ銀行：大阪中央支店) | 6,245,690 | | |
| 普通預金(三井住友銀行：十三支店) | 3,246,082 | | |
| 通常貯金(ゆうちょ銀行) | 10,000,000 | | |
| 定期預金(住友信託銀行：本店営業部) | 10,000,000 | | |
| 定期預金(三菱東京UFJ銀行：大阪中央支店) | 10,000,000 | | |
| 定期預金(三井住友銀行：十三支店) | 10,000,000 | | |
| 立替金(債券購入時経過利子立替) | 1,493,697 | | |
| 前払費用(留学生研修補助金) | 1,250,000 | | |
| 流動資産合計 | | 402,004,304 | |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 現金預金 | 3,192,792 | | |
| 普通預金(住友信託銀行：本店営業部)(一般) | 3,192,792 | | |
| 投資有価証券 | 54,267,880,934 | | |
| 株式(武田薬品工業株15,306,500株)(指定) | 52,042,100,000 | | |
| 公社債(国債・東京電力社債他)(一般) | 2,225,780,934 | | |
| 基本財産合計 | 54,271,073,726 | | |
| (2) 特定資産 | | | |
| 助成基金 | 13,212,444,595 | | |
| 普通預金(住友信託銀行：本店営業部) | 18,127,645 | | |
| 株式(武田薬品工業株2,605,356株) | 8,858,210,400 | | |
| 公社債(国債・東京電力社債他) | 4,336,106,550 | | |
| 杏雨基金 | 231,490,058 | | |
| 普通預金(住友信託銀行：本店営業部) | 31,773,829 | | |
| 公社債(国債・東京電力社債他) | 199,716,229 | | |
| 特定費用準備資金 | 1,100,000,000 | | |
| 定期預金(住友信託銀行：本店営業部) | 1,100,000,000 | | |
| 特定資産合計 | 14,543,934,653 | | |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 什器備品(移動ラック他) | 1,378,490 | | |
| 図書資料(本草関係書籍等) | 1,881,263,763 | | |
| その他固定資産合計 | 1,882,642,253 | | |
| 固定資産合計 | | 70,697,650,632 | |
| 資産合計 | | | 71,099,654,936 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払費用(給料未払他) | 5,447,534 | | |
| 預り金(預り源泉所得税他) | 3,419,337 | | |
| 流動負債合計 | | 8,866,871 | |
| 2. 固定負債 | | | |
| 役員退職慰労引当金 | 3,925,000 | | |
| 退職給付引当金 | 3,267,000 | | |
| 固定負債合計 | | 7,192,000 | |
| 負債合計 | | | 16,058,871 |
| 正味財産 | | | 71,083,596,065 |

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 新会計基準の採用
2006年度（平成18年度）から「公益法人会計基準」（平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ）を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ①満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）によっている。
 - ②その他有価証券 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減として処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっている。
(時価のあるもの)
- (3) 固定資産の減価償却の方法
 - ①什器備品 定額法によっている。
 - ②図書資料 本草および医書関係書籍等の古文書であり、減価償却を行わない。
- (4) 引当金の計上基準
 - ①役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員報酬規程に基づく期末要支給額を計上している。
 - ②退職給付引当金 職員の退職金の支給に備えるため、職員給与・職員退職金規程に基づく期末要支給額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次の通りである。

(円)

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|----------|----------------|---------------|----------------|----------------|
| 基本財産 | | | | |
| 現金 | 93,305,246 | 649,809,846 | 739,922,300 | 3,192,792 |
| 投資有価証券 | 78,515,103,480 | 739,922,300 | 24,987,144,846 | 54,267,880,934 |
| 小計 | 78,608,408,726 | 1,389,732,146 | 25,727,067,146 | 54,271,073,726 |
| 特定資産 | | | | |
| 報助金 | 212,467,095 | 0 | 212,467,095 | 0 |
| 形成基金 | 17,354,960,635 | 1,600,397,232 | 5,742,913,272 | 13,212,444,595 |
| 杏雨基金 | 231,490,058 | 100,451,000 | 100,451,000 | 231,490,058 |
| 特定費用準備資金 | 0 | 1,100,000,000 | 0 | 1,100,000,000 |
| 小計 | 17,798,917,788 | 2,800,848,232 | 6,055,831,367 | 14,543,934,653 |
| 合計 | 96,407,326,514 | 4,190,580,378 | 31,782,898,513 | 68,815,008,379 |

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りである。

(円)

| 科 目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産 からの充当額) | (うち一般正味財産 からの充当額) | (うち負債に 対応する額) |
|----------|----------------|----------------------|----------------------|------------------|
| 基本財産 | | | | |
| 現金 | 3,192,792 | | (3,192,792) | |
| 投資有価証券 | 54,267,880,934 | (52,042,100,000) | (2,225,780,934) | |
| 小計 | 54,271,073,726 | (52,042,100,000) | (2,228,973,726) | (0) |
| 特定資産 | | | | |
| 報助金 | 0 | | (0) | |
| 形成基金 | 13,212,444,595 | | (13,212,444,595) | |
| 杏雨基金 | 231,490,058 | | (231,490,058) | |
| 特定費用準備資金 | 1,100,000,000 | | (1,100,000,000) | |
| 小計 | 14,543,934,653 | | (14,543,934,653) | (0) |
| 合計 | 68,815,008,379 | (52,042,100,000) | (16,772,908,379) | (0) |

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

(円)

| 科 目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|---------|---------------|------------|---------------|
| 什 器 備 品 | 32,762,565 | 31,384,075 | 1,378,490 |
| 図 書 資 料 | 1,881,263,763 | 0 | 1,881,263,763 |
| 合 計 | 1,914,026,328 | 31,384,075 | 1,882,642,253 |

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(円)

| 区 分 | 帳簿価額 | 時 価 | 評価差益 |
|-----------------|---------------|---------------|------------|
| 短 期 国 債 | 98,835,792 | 99,774,600 | 938,808 |
| 利 付 国 債 | 5,872,536,586 | 5,937,068,100 | 64,531,514 |
| 東 京 電 力 社 債 | 391,401,793 | 399,040,000 | 7,638,207 |
| 一 般 事 業 債 | 299,792,306 | 302,600,000 | 2,807,694 |
| 利 付 電 信 電 話 債 券 | 99,037,236 | 101,100,000 | 2,062,764 |
| 合 計 | 6,761,603,713 | 6,839,582,700 | 77,978,987 |

収 支 計 算 書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

財団法人 武田科学振興財団

(円)

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|---------------|---------------|---------------|------------|------------|
| I 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| 基本財産運用収入 | 2,653,918,000 | 2,654,152,469 | -234,469 | |
| 配当金収入 | 2,632,718,000 | 2,632,718,000 | 0 | |
| 公社債利息収入 | 21,200,000 | 21,405,410 | -205,410 | |
| その他利息収入 | 0 | 29,059 | -29,059 | |
| 特定資産運用収入 | 482,721,232 | 485,493,454 | -2,772,222 | |
| 配当金収入 | 448,121,232 | 448,121,232 | 0 | |
| 公社債利息収入 | 33,200,000 | 35,463,746 | -2,263,746 | 予算の見積差 |
| その他利息収入 | 1,400,000 | 1,908,476 | -508,476 | |
| 寄付金収入 | 6,000,000 | 553,000 | 5,447,000 | 予算の見積差 |
| 雑収入 | 100,000 | 1,470 | 98,530 | |
| 事業活動収入計 | 3,142,739,232 | 3,140,200,393 | 2,538,839 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| 研究助成事業費支出 | 1,568,810,989 | 1,561,757,695 | 7,053,294 | |
| 武田報彰医学研究助成金支出 | 150,000,000 | 150,000,000 | 0 | |
| 報彰基金研究奨励金支出 | 201,000,000 | 196,000,000 | 5,000,000 | 交付件数減 |
| 報彰基金付随費支出 | 5,310,989 | 5,310,989 | 0 | |
| 生命科学研究助成金支出 | 150,000,000 | 150,000,000 | 0 | |
| 一般研究奨励金支出 | 72,000,000 | 72,000,000 | 0 | |
| 医学系研究奨励金支出 | 197,000,000 | 197,000,000 | 0 | |
| 薬学系研究奨励金支出 | 95,000,000 | 95,000,000 | 0 | |
| 特定研究助成金支出 | 640,000,000 | 640,000,000 | 0 | |
| シンポジウム研究奨励金支出 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | |
| 高校理科教育振興奨励金支出 | 9,000,000 | 8,100,000 | 900,000 | 交付件数減 |
| 杏雨書屋研究奨励金支出 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 | |
| 付随費支出 | 45,000,000 | 43,846,706 | 1,153,294 | |
| 外国留学生支援事業費支出 | 118,000,000 | 109,690,515 | 8,309,485 | |
| 研修補助金支出 | 107,600,000 | 101,584,316 | 6,015,684 | 留学研究者減 |
| 付随費支出 | 10,400,000 | 8,106,199 | 2,293,801 | 同上 |
| 武田医学賞褒賞事業費支出 | 60,000,000 | 59,988,785 | 11,215 | |
| 褒賞金支出 | 45,000,000 | 45,000,000 | 0 | |
| 付随費支出 | 15,000,000 | 14,988,785 | 11,215 | |
| 杏雨書屋運営事業費支出 | 136,800,000 | 127,336,778 | 9,463,222 | |
| 研究調査費支出 | 8,000,000 | 6,623,946 | 1,376,054 | |
| 運営協議会費支出 | 1,800,000 | 1,526,487 | 273,513 | |
| 展示・研究会費支出 | 4,200,000 | 4,189,419 | 10,581 | |
| 出版費支出 | 35,000,000 | 31,559,100 | 3,440,900 | 香要抄(2)の価格減 |
| 図書保管費支出 | 52,800,000 | 49,549,127 | 3,250,873 | 修理完了のズレ |
| 図書費支出 | 1,500,000 | 1,164,073 | 335,927 | |
| 消耗什器備品費支出 | 1,000,000 | 804,783 | 195,217 | |
| 開館30周年費支出 | 30,000,000 | 29,421,322 | 578,678 | |
| 付随費支出 | 2,500,000 | 2,498,521 | 1,479 | |

| | | | | |
|--------------|----------------|----------------|-------------|--------|
| シンポジウム事業費支出 | 38,500,000 | 33,290,993 | 5,209,007 | |
| 開催費支出 | 36,000,000 | 32,578,476 | 3,421,524 | 参加者数の減 |
| 準備費支出 | 2,500,000 | 712,517 | 1,787,483 | 準備会合の減 |
| 管理費支出 | 134,700,000 | 125,805,030 | 8,894,970 | |
| 役員報酬支出 | 21,900,000 | 21,868,000 | 32,000 | |
| 給料手当支出 | 44,500,000 | 44,283,779 | 216,221 | |
| 福利厚生費支出 | 9,700,000 | 9,311,367 | 388,633 | |
| 会議費支出 | 6,000,000 | 3,370,010 | 2,629,990 | 予算の見積差 |
| 旅費交通費支出 | 1,300,000 | 1,538,309 | -238,309 | |
| 通信運搬費支出 | 3,000,000 | 3,226,632 | -226,632 | |
| 消耗什器備品費支出 | 1,000,000 | 438,805 | 561,195 | |
| 広報費支出 | 5,000,000 | 4,869,360 | 130,640 | |
| 光熱費支出 | 1,500,000 | 1,050,187 | 449,813 | |
| 事務所賃借料支出 | 28,200,000 | 28,123,200 | 76,800 | |
| 事務用品費支出 | 8,500,000 | 3,626,546 | 4,873,454 | 予算の見積差 |
| 会計監査報酬支出 | 1,600,000 | 1,575,000 | 25,000 | |
| 雑費支出 | 2,500,000 | 2,523,835 | -23,835 | |
| 事業活動支出計 | 2,056,810,989 | 2,017,869,796 | 38,941,193 | |
| 事業活動収支差額 | 1,085,928,243 | 1,122,330,597 | -36,402,354 | |
| II 投資活動収支の部 | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | |
| 特定資産取崩収入 | 212,467,095 | 212,467,095 | 0 | |
| 報彰基金取崩収入 | 212,467,095 | 212,467,095 | 0 | |
| 投資活動収入計 | 212,467,095 | 212,467,095 | 0 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | |
| 特定資産取得支出 | 1,100,000,000 | 1,100,000,000 | 0 | |
| 特定費用準備資金支出 | 1,100,000,000 | 1,100,000,000 | 0 | |
| 固定資産取得支出 | 142,000,000 | 136,087,500 | 5,912,500 | |
| 図書資料取得支出 | 136,000,000 | 136,087,500 | -87,500 | |
| 什器備品取得支出 | 6,000,000 | 0 | 6,000,000 | 発生なし |
| 投資活動支出計 | 1,242,000,000 | 1,236,087,500 | 5,912,500 | |
| 投資活動収支差額 | -1,029,532,905 | -1,023,620,405 | -5,912,500 | |
| III 財務活動収支の部 | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | | | | |
| 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額 | 56,395,338 | 98,710,192 | -42,314,854 | |
| 前期繰越収支差額 | 294,427,241 | 294,427,241 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 350,822,579 | 393,137,433 | -42,314,854 | |

(注1)収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）の記載の3区分の様式によっている。

(注2)資金の範囲には、現金預金、立替金、前払費用、未収入金、未払費用および預り金を含んでいる。

(注3)次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(円)

| 科 目 | 前期末残高 | 当期末残高 |
|----------|-------------|-------------|
| 現金預金 | 296,950,374 | 399,260,607 |
| 立替金 | 493,150 | 1,493,697 |
| 前払費用 | 3,746,070 | 1,250,000 |
| 未収入金 | 31,869 | 0 |
| 合 計 | 301,221,463 | 402,004,304 |
| 未払費用 | 4,544,082 | 5,447,534 |
| 預り金 | 2,250,140 | 3,419,337 |
| 合 計 | 6,794,222 | 8,866,871 |
| 次期繰越収支差額 | 294,427,241 | 393,137,433 |

監 査 報 告 書

2009年4月24日

財団法人 武田科学振興財団
理事長 横山 巖 殿

財団法人 武田科学振興財団

監 事 石 川 正 ⑩

監 事 中 山 俊 治 ⑩

私たちは、財団法人武田科学振興財団の2008年4月1日から
2009年3月31日までの2008年度における会計および事業の監査
を行なった結果、事業報告書、財務諸表すなわち貸借対照表、正味財産増減
計算書、キャッシュ・フロー計算書および財産目録ならびに収支計算書は、
正確かつ妥当であり、理事の業務執行は誠実に行なわれていたことを確認し
た。

以 上

独立監査人の監査報告書

平成 21 年 4 月 17 日

財団法人 武田科学振興財団

理事長 横山 巖 殿

監査法人 トーマツ

指定社員 公認会計士 吉村 祥二郎 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、財団法人武田科学振興財団の平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの 2008 年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書及び財産目録、並びに収支計算書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。この財務諸表等の作成責任は理事者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

監査の結果、当監査法人の意見は次のとおりである。

- (1)財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、財団法人武田科学振興財団の 2008 年度末日現在の財政状態並びに同年度の正味財産増減及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。
- (2)収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成 17 年 3 月 23 日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、財団法人武田科学振興財団の 2008 年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

財団法人武田科学振興財団と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

特定研究助成 [I] 2008交付対象機関

| 研究機関 | 研究代表者 | 職 位 | 研 究 題 目 | 交付金額 (万円) |
|--------------|----------------|----------------|---|----------------|
| 理化学研究所 | 石川 文彦 | ユニット リーダー | 免疫造血系ヒト化マウス開発成功を基盤としたヒト疾患研究への応用 | 5,000 |
| 癌研究会 千葉大学 | 今村 健志 岩間 厚志 | 部長 教授 | 先進的イメージング技術を応用したがん転移分子標的の同定 幹細胞におけるクロマチン機能の解明とその制御法の創出 | 5,000 5,000 |
| 順天堂大学 | 上野 隆 | 准教授 | 血糖調節とオートファジー タンパク分解を標的とする糖尿病予防への応用 | 5,000 |
| 川崎医科大学 | 大槻 剛巳 | 教授 | アスベスト起因悪性中皮腫の治療および予防に向けた分子標的の探索 | 5,000 |
| 鳥取大学 | 押村 光雄 | 教授 | ヒト型薬物代謝系を持つマウス-医薬品開発のための基礎研究 | 5,000 |
| 関西医科大学 | 木梨 達雄 | 教授 | 細胞接着の時空間制御による免疫システムの動態調節機構 | 5,000 |
| 医薬基盤研究所 | 野村 大成 | プロジェクト リーダー | 創薬研究等のためのヒト疾患自然発症マウスモデル系の確立 | 5,000 |
| 新潟大学 | 長谷川 功 | 教授 | 脳活動から文字を直接指示する言語支援システムの基盤開発 | 5,000 |
| 自治医科大学 | 間野 博行 | 教授 | 肺がん原因遺伝子EML4-ALKの臨床応用と新規がん遺伝子の探索 | 5,000 |
| 北海道大学 | 安田 和則 | 教授 | 高機能ダブルネットワークゲルがin vivoで関節軟骨の自然再生を誘導する分子機序の解明 | 5,000 |
| 長崎大学 | 吉浦 孝一郎 | 教授 | 長崎県・長崎大学の特性を生かした塩基配列評価法の新規ゲノム研究への応用 | 5,000 |

2008年度 武田報彰医学研究助成贈呈者

| 氏 名 | 所 属 機 関 | 職 位 | 研 究 題 目 | 交付金額 (万円) |
|-------|------------------------------------|-----|--------------------------------|--------------|
| 荒瀬 尚 | 大阪大学微生物病研究所 免疫化学分野 | 教授 | ペア型レセプターによる免疫制御機構の解明 | 3,000 |
| 岩田 想 | 京都大学大学院医学研究科 | 教授 | 結晶構造に基づいた膜輸送体分子輸送機構の研究 | 3,000 |
| 熊ノ郷 淳 | 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター | 教授 | セマフォリンシグナルによる細胞動態制御機構の解明とその可視化 | 3,000 |
| 水島 昇 | 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 細胞生理学分野 | 教授 | オートファジーによる細胞内分解系の基礎医学的研究 | 3,000 |
| 渡邊 大 | 京都大学大学院医学研究科 | 教授 | 大脳皮質-基底核相互の制御機構の解明 | 3,000 |

2008年度 生命科学研究所助成贈呈者

| 氏 名 | 所 属 機 関 | 職 位 | 研 究 題 目 | 交付金額 (万円) |
|-------|------------------------------------|-----|--|--------------|
| 樗木 俊聡 | 秋田大学医学部病理病態医学 講座生体防御学分野 | 教授 | 粘膜におけるTGF-β環境構築メカニズム | 1,000 |
| 片桐 秀樹 | 東北大学大学院医学系研究科 | 教授 | 臓器間ネットワークによる糖代謝・エネルギー代謝調節機構の解明 | 1,000 |
| 鳥山 一 | 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 | 教授 | 慢性アレルギーの分子病態の解明と責任遺伝子の特定 | 1,000 |
| 北村 大介 | 東京理科大学生命科学研究科 分子生物学部門 | 教授 | DNase γによる危険シグナルの形成と組織修復免疫応答の分子機構 | 1,000 |
| 吉川 雅英 | 京都大学大学院理学研究科 構造生物学NEDO特別講座 | 教授 | 微小管-ダイニン相互作用の高解像度解析 | 1,000 |
| 黒川 理樹 | 埼玉医科大学ゲノム医学研究 センター-遺伝子構造機能部門 | 教授 | 非コードRNAによる遺伝子発現制御機構 | 1,000 |
| 鈴木 聡 | 九州大学生体防御医学研究所 発生工学分野 | 教授 | PTENと結合する新規PI3キナーゼ経路抑制分子の単離とその異常による病態の解明 | 1,000 |
| 高柳 広 | 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 分子情報伝達学 | 教授 | 骨の老化機構の解明とその制御法の確立 | 1,000 |
| 辻本 豪三 | 京都大学大学院薬学研究科 ゲノム創薬科学分野 | 教授 | 新規脂肪酸受容体の生理、病態意義に関する研究 | 1,000 |
| 萩原 正敏 | 東京医科歯科大学 大学院疾患生命科学研究部 | 教授 | 遺伝子発現パターンの可視化によるスプライシング暗号の解明 | 1,000 |
| 広海 健 | 国立遺伝学研究所 発生遺伝研究部門 | 教授 | 軸索内バターンニングによる軸索ガイダンス:神経回路形成の新しい原理 | 1,000 |
| 村田 茂穂 | 東京大学大学院薬学系研究科 蛋白質代謝学教室 | 教授 | プロテアソームの動作原理の解明と疾患制御への応用 | 1,000 |
| 山口 明人 | 大阪大学産業科学研究科 生体応答科学研究部門 | 教授 | 分泌輸送介在型情報伝達の解明 | 1,000 |
| 柚崎 通介 | 慶應義塾大学医学部 神経生理学 | 教授 | 成熟脳においてシナプス再構築を制御する新しい分子機構-機能的神経再生に向けて | 1,000 |
| 吉森 保 | 大阪大学微生物病研究所 細胞制御分野 | 教授 | 細胞内自己分解システム・オートファジーによる生体防御機構の解明 | 1,000 |

2008年度 報彰基金研究助成贈呈者

《テーマ:心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病》

| 氏 名 | 所 属 機 関 | 職 位 | 研 究 題 目 | 交付金額 (万円) |
|-------|--------------|-----|-----------------------------|--------------|
| 荒井 秀典 | 京都大学大学院医学研究科 | 講師 | 炎症制御によるメタボリックシンドローム治療の新たな展開 | 1,000 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|--|-----------|---|----------|
| 児島 将康 | 久留米大学 分子生命科学研究所 | 教授 | メタボリックシンドロームにおける摂食調節ペプチドの役割と治療への応用 | 1,000 |
| 中里 雅光 | 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野 | 教授 | 新規の脳内摂食調節物質の同定と機能解析 | 1,000 |
| 山内 敏正 | 東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 統合的分子代謝疾患科学講座 | 特任 准教授 | アディポネクチンによる臓器間ネットワークと代謝ストレス制御メカニズム解明に基づく糖尿病・動脈硬化の新規治療法の開発 | 1,000 |
| 山下 俊英 | 大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学 | 教授 | 脳血管傷害後の神経回路を修復する治療薬の開発的研究 | 1,000 |

特定研究助成[Ⅱ]2008贈呈者

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|-------------------------------|-----------|--|----------|
| 柿木 隆介 | 生理学研究所 統合生理研究系 | 教授 | 痒みと痛みの脳内認知機構の解明 | 300 |
| 川口 禎晴 | 愛知県心身障害者コロニー発達 障害研究所発生障害学部 | 研究員 | タンパク質の可逆性アセチル化制御に関わる分子を標的としたうつ病の病態解明 | 100 |
| 木下 彩栄 | 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 | 教授 | In vivo modelを用いたアルツハイマー病におけるシナプス変性機構の解明 | 100 |
| 小山 隆太 | 東京大学大学院薬学系研究科 | 助教 | 側頭葉てんかんにおける異常神経回路の形成機構の解明:細胞内ミトコンドリア輸送異常の関与の検証 | 100 |
| 定方 哲史 | 理化学研究所分子神経形成 研究チーム基礎科学 | 特別 研究員 | 自閉症に関連する遺伝子の研究 | 150 |
| 佐藤 隆史 | 群馬大学生体調節研究所 生体情報部門細胞構造分野 | 助教 | 神経細胞の極性関連分子の欠損マウスを用いた小脳低形成の病態解明 | 500 |
| 清水 貴美子 | 東京大学大学院理学系研究科 生物化学 | 助教 | 時計システムがいかにして情動を制御するか | 300 |
| 郷 鶴 | 岩手医科大学薬学部 神経科学講座 | 助手 | アルツハイマー病モデルマウスにおけるACE作用の研究及び新規ACE阻害剤の開発 | 100 |
| 田中 秀和 | 大阪大学大学院医学系研究科 | 助教 | 神経回路網の再構築をともなう病態の解明 | 100 |
| 永井 義隆 | 大阪大学大学院医学系研究科 | 准教授 | 蛋白質のミスフォールディング・凝集を標的とした神経変性疾患共通の治療薬の開発 | 150 |
| 仲嶋 一範 | 慶應義塾大学医学部 解剖学教室 | 教授 | 統合失調症候補遺伝子の機能解析 | 150 |
| 中村 加枝 | 関西医科大学 生理学第二講座 | 教授 | セロトニンとドーパミンの均衡による意欲と衝動性のコントロールのメカニズムの解明 | 100 |
| 鍋島 俊隆 | 名城大学大学院薬学研究科 薬品作用学研究室 | 教授 | 環境および遺伝要因の組み合わせによる新たな統合失調症モデル動物の作製と治療薬の開発 | 150 |
| 塗谷 睦生 | 慶應義塾大学医学部 薬理学教室 | 専任 講師 | 樹状突起の機能障害としての脳機能疾患の解析 | 150 |
| 平井 宏和 | 群馬大学大学院医学系研究科 神経生理学分野 | 教授 | 遺伝性脊髄小脳変性症の遺伝子治療法開発 | 400 |
| 三宅 幸子 | 国立精神・神経センター 神経研究所免疫研究部 | 室長 | 腸管局在性免疫制御性細胞を介した多発性硬化症の予防・治療法の開発 | 150 |
| 森吉 弘毅 | 京都大学大学院生命科学 研究科高次脳機能学分野 | 准教授 | 蛋白相互作用を対象とするシナプス病治療戦略の開発 | 300 |
| 柳 茂 | 東京薬科大学 生命科学部 | 教授 | CRAG遺伝子による脊髄小脳変性症治療に向けた分子基盤の確立 | 300 |
| 山田 清文 | 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部 | 教授 | ストレスセンサーとしての脳特異的転写調節因子Npas4の動態および機能解析 | 100 |
| 渡瀬 啓 | 東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科 | 特任 准教授 | 脊髄小脳変性症におけるスプライス制御失調の病態生理学的意義とその機構の解明 | 300 |

2008年度 一般研究奨励贈呈者

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|------------------------------------|-----|--|----------|
| 大場 雄介 | 北海道大学大学院医学研究科 | 准教授 | Ras-標的分子結合の時空間的パターンを決定する分子機構とその機能の解明 | 200 |
| 阿部 理一郎 | 北海道大学病院 | 講師 | 骨髄由来表皮細胞を用いた先天性構造タンパク欠損症の根治的治療の検討 | 200 |
| 星野 洋一郎 | 北海道大学 創成科学共同研究機構 | 助教 | 胚乳形成を制御する分子プログラムの解析と胚乳からの分化系を利用した新規植物育種法の開発 | 200 |
| 森口 尚 | 東北大学大学院医学系研究科 医化学分野 | 助教 | 大腸菌人工染色体トランスジェニックマウスを用いた転写因子GATA-1変異による白血病発症メカニズムの解明 | 200 |
| 福本 敏 | 東北大学大学院歯学研究科 | 教授 | 脱落乳歯を応用した歯の再生治療開発に関する研究 | 200 |
| 今居 謙 | 東北大学 特定領域研究推進支援センター | 准教授 | パーキンソン病原因遺伝子LRRK2の多面的解析 | 200 |
| 佐藤 守俊 | 東京大学 大学院総合文化研究科 | 准教授 | 疾患細胞を早期診断・早期治療する分子プローブの創製 | 200 |
| 伊原 さよ子 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 | 助教 | 細胞癌化に関わるアクチン結合タンパク質の新機能の解明 | 200 |
| 喜多村 和郎 | 東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻生理学講座神経生理学 | 助教 | 個体脳単一ニューロンにおけるシナプス統合とその生理的意義 | 200 |
| 小山 時隆 | 名古屋大学 大学院理学研究科 | 助教 | 概日振動システムにみられるロバストネスの実験的検証とその進化における意義の探究 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|--|------------|--|----------|
| 佐藤 豊 | 名古屋大学 大学院生命農学研究科 | 准教授 | イネの胚形成過程における器官形成機構の解析 | 200 |
| 大河内 美奈 | 名古屋大学 大学院工学研究科 | 講師 | 磁力を利用した液滴ハンドリングによる一細胞遺伝子解析システムの開発 | 200 |
| 土居 雅夫 | 京都大学大学院薬学研究科 医薬創成情報科学専攻 システムバイオロジー分野 | 講師 | 転写振動の動態管理を担う新エピジェネティック法則の同定と生体リズム調整剤の開発 | 200 |
| 今西 未来 | 京都大学化学研究所 | 助教 | 概日リズム同調メカニズムの解明に向けた人工転写因子の創製 | 200 |
| 寶関 淳 | 京都大学再生医学研究所 細胞機能調節学分野 | 産学官 連携 | ジスルフィド還元酵素ERdj5の還元経路解析 | 200 |
| 竹ヶ原 宣子 | 大阪大学 微生物病研究所 | 助教 | セマフォリンシグナル多様性獲得の分子メカニズムの解明 | 200 |
| 岡田 欣晃 | 大阪大学大学院薬学研究科 蛋白質情報解析学分野 | 助教 | 血小板分化を制御する転写因子群の同定とin vitro高収率血小板調製システムの開発 | 200 |
| 櫛引 俊宏 | 大阪大学大学院工学研究科 附属フロンティア研究センター | 特任 講師 | 医工連携技術を用いた細胞機能制御に関する研究 ー光子技術の医学・生物学応用にむけてー | 200 |
| 戸叶 基樹 | 九州大学大学院工学研究院 応用化学部門(機能) | 助教 | 骨格融合法による近赤外発光アニオン認識プローブの開発 | 200 |
| 松下 智直 | 九州大学高等研究機構 | 特任 准教授 | 植物の主要な光情報受容体フィトクロムBの細胞内シグナル伝達機構の解析 | 200 |
| 前仲 勝実 | 九州大学 生体防御医学研究所 | 准教授 | 犬ジステンパーウイルスワクチンの有効性に関する構造基盤 | 200 |
| 梅村 正幸 | 琉球大学 遺伝子実験センター | 助教 | 肺結核感染症におけるInterleukin(IL)-17依存性免疫応答の制御と防御メカニズムの解明 | 200 |
| 渡部 久実 | 琉球大学遺伝子実験センター | 助教 | マラリア原虫感染により誘導される自己抗体の感染防御機能の解析 | 200 |
| 平良 東紀 | 琉球大学農学部 | 准教授 | 亜熱帯植物遺伝子の多様性を利用した植物キチナーゼの構造と抗真菌活性との相関解明 | 200 |
| 横尾 隆 | 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所 プロジェクト研究部腎臓再生研究室 | 室長 | 維持透析を代替する次世代腎臓再生法の開発 | 200 |
| 伊達 太郎 | 東京慈恵会医科大学 循環器内科 | 助教 | アンジオテンシンIIにより惹起される不整脈源性心房内炎症とその分子生物学的機序の解明 | 200 |
| 猿田 雅之 | 東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科 | 助教 | 炎症性腸疾患におけるストレス関連ペプチドCRFおよびUrocortin Familyの発現とその作用 | 200 |
| 舟橋 啓 | 慶應義塾大学理工学部 | 専任 講師 | インシュリンシグナル伝達ネットワークの網羅的解析法の開発 | 200 |
| 堀田 耕司 | 慶應義塾大学理工学部 生命情報学科 | 助教 | 脊索動物個体全体を用いた神経細胞ネットワークの網羅的解明 | 200 |
| 堀澤 健一 | 慶應義塾大学理工学部 | 特別研究 助教 | アルギニンメチル化酵素群における標的タンパク質の網羅的探索技術の開発 | 200 |
| 越野 一朗 | 東京女子医科大学医学部 生化学教室 | 助教 | マラリア感染防御のための赤血球側からのアプローチ | 200 |
| 中谷 幸太郎 | 東京女子医科大学 脳神経外科 | 助教 | 細胞保護物質投与による放射線誘導アポトーシス抑制効果の研究 | 200 |
| 栗本 真紀子 | 東京女子医科大学 第二内科 | 助教 | 成人における成長ホルモン分泌異常に関する研究 | 200 |
| 片山 由紀 | 順天堂大学医学部 細菌学 | 助教 | 黄色ブドウ球菌の新規免疫攪乱遺伝子によるアトピー性皮膚炎の増悪および宿主感染免疫機構の解明 | 200 |
| 石島 旨章 | 順天堂大学医学部 整形外科 | 助教 | 変形性膝関節症における滑膜に発現するパールカンの機能解析 | 200 |
| 中野 信浩 | 順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター | 助教 | マスト細胞の未知機能の探索とその制御 | 200 |

2008年度 医学系研究奨励贈呈者

《基礎系研究》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|--------------------------------|--------------|--|----------|
| 赤澤 宏 | 千葉大学大学院医学研究院 心血管病態解析学寄附講座 | 寄附講座 教員 | アンジオテンシンII受容体を介するメカノセンシング機構の解明 | 200 |
| 縣 保年 | 京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学分野 | 助教 | エピジェネティクスと染色体ダイナミクスによる対立遺伝子排除の制御機構 | 200 |
| 吾郷 日出夫 | 理化学研究所 宮野構造生物物理研究室 | 専任 研究員 | ヒト由来膜蛋白質の構造生物学的解析による生理活性脂質代謝機構解明 | 200 |
| 井倉 毅 | 東北大学大学院医学系研究科 細胞生物学講座生物化学分野 | 講師 | ユビキチン化によって制御される新たなDNA損傷応答機構と癌抑制シグナルのクロストーク | 200 |
| 池添 隆之 | 高知大学医学部 血液・呼吸器内科 | 助教 | 分裂期キナーゼを標的とした新規がん治療法の開発 | 200 |
| 石丸 直澄 | 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 | 准教授 | T細胞のシグナル伝達異常に基づいた自己免疫疾患発症機序の解明 | 200 |
| 今井 暁子 | 癌研究会癌研究所 がん生物部 | 研究員 | 細胞老化維持機構の破綻とその発癌への関与 | 200 |
| 今井 陽一 | 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 | 講師 | リアルタイム生体イメージングに基づく骨髄微小環境における造血幹細胞・白血病幹細胞の動態の解析 | 200 |
| 入江 潤一郎 | 慶應義塾大学医学部 内科腎臓内分泌代謝科 | 特別研究 助教 | 免疫応答としての肝脂肪蓄積と代謝異常の解析 | 200 |
| 岩脇 隆夫 | 理化学研究所 岩脇独立主幹研究ユニット | ユニット リーダー | 血管新生を制御するストレス応答分子の機能解析 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額 (万円) |
|--------|---|--------------------|---|--------------|
| 上原 孝 | 北海道大学大学院薬学研究院 | 准教授 | 酸化蛋白質特異的認識抗体の孤発性神経変性疾患診断への応用 | 200 |
| 内村 健治 | 国立長寿医療センター研究所 アルツハイマー病研究部 発症機序解析研究室 | 室長 | アルツハイマー病モデルマウスを用いた脳血管外細胞遊走分子メカニズムの解析 | 200 |
| 大森 義裕 | 大阪バイオサイエンス研究所 発症生物学部門 | 研究員 | 織毛関連疾患(網膜色素変性症、肥満、多発性嚢胞腎、多指症など)の発症メカニズムの解析 | 200 |
| 荻 朋男 | 長崎大学大学院医歯薬学総合 研究科原爆後障害医療研究施設分子医療 部門分子診断分野 | テニョア トラック 助教 | 放射線損傷DNA修復過程における複製忠実度の低いDNAポリメラーゼによる突然変異誘発機構の解析 | 200 |
| 親泊 政一 | 徳島大学疾患ゲノム研究 センター生体機能分野 | 教授 | 小胞体ストレス応答のシグナルによる生体機能制御 | 200 |
| 片岡 浩介 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 | 准教授 | 膵島β細胞のグルコース感知システムの分子実体の解明とその破綻のメカニズム | 200 |
| 川内 健史 | 慶應義塾大学医学部 解剖学教室 | 講師 | 発生期大脳皮質における神経細胞の成熟過程を制御する分子機構のin vivo解析 | 200 |
| 川口 寧 | 東京大学医学研究所感染症 国際研究センター感染制御部門 | 准教授 | リアルタイムイメージングを用いたウイルス粒子成熟過程の時空間的解析 | 200 |
| 北村 浩 | 理化学研究所免疫・アレルギー 科学総合研究センター 免疫ゲノミクス研究グループ | 上級 研究員 | 急性骨髄性白血病幹細胞特異的なスプライシングバリエーションの同定と機能解析 | 200 |
| 小泉 修一 | 山梨大学大学院医学工学総合 研究部薬理学講座 | 教授 | 脳虚血耐性現象におけるミクログリアの役割に関する研究 | 200 |
| 佐藤 健 | 群馬大学生体調節研究所 | 准教授 | 細胞内へのコレステロール取り込みにはたらく分子メカニズムの解析 | 200 |
| 篠原 正浩 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究 科分子情報伝達学 | 助教 | 破骨細胞分化におけるインシトルリン脂質を介したシグナル伝達経路の解明 | 200 |
| 神野 尚三 | 九州大学大学院医学研究院 神経形態学分野 | 講師 | うつ病治療基盤としての海馬の構造的可塑性の解明 | 200 |
| 末次 志郎 | 東京大学 分子細胞生物学研究所 | 講師 | シグナル伝達の膜形態依存的時空間制御機構の解明 | 200 |
| 杉森 道也 | 富山大学大学院医学薬学 研究部統合神経科学 | 助教 | 深部脳刺激による神経前駆細胞の分化制御と神経再生誘導療法の開発 | 200 |
| 曾根 正勝 | 京都大学大学院医学研究科 | 助教 | hiPESとESを用いた血管再生・老化機構の解明と再生治療への応用 | 200 |
| 高江洲 義一 | 九州大学生体防御医学研究所 免疫制御学分野 | 助教 | 細胞周期依存的なオートファジー制御機構の解明 | 200 |
| 武田 壮一 | 国立循環器病センター研究所 心臓生理学 | 室長 | 蛇毒高分子量メタロプロテアーゼによる標的タンパク質認識機構の研究 | 200 |
| 田中 耕三 | 東北大学加齢医学研究所 特定領域研究推進支援センター | 准教授 | 発がん機構との関連におけるゲノム安定性維持機構の解析 | 200 |
| 田村 功一 | 横浜市立大学大学院医学 研究科病態制御内科学 | 准教授 | 心血管病増悪因子受容体の新規特異的機能調節因子を標的とした発症工学的手法の応用による生体での機能制御の試み | 200 |
| 田村 智彦 | 東京大学大学院医学系研究科 免疫学 | 准教授 | 転写因子IRF5による腫瘍抑制の分子機構に関する研究 | 200 |
| 寅嶋 崇 | 群馬大学大学院医学系研究科 教育研究センター(神経生理) | 助教 | 臨床に使用できる安全なレンチウイルスベクターの作製とその遺伝子発現に関する研究 | 200 |
| 西田 満 | 神戸大学大学院医学系研究科 細胞生理学分野 | 准教授 | Rif低分子量G蛋白質のWnt5a-Ror2シグナル伝達系における役割 | 200 |
| 野田 岳志 | 東京大学医学研究所 | 特任 助教 | In situ hybridization法を用いたインフルエンザウイルス・ゲノム集合機構の解析 | 200 |
| 原田 高幸 | 東京都神経科学総合研究所 運動・感覚システム研究分野 | 副参事 研究員 | 正常眼圧緑内障に対する新規治療法の開発 | 200 |
| 平島 正則 | 神戸大学大学院医学系研究科 血管生物学分野 | 特命 准教授 | リンパ管形成において内皮細胞の制御と形態形成に関与する分子基盤の解明 | 200 |
| 平山 順 | 東京医科歯科大学難治疾患 研究所MTTプログラム | 特任 講師 | 概日リズムによる基本生理機能の制御機構 | 200 |
| 廣野 守俊 | 理化学研究所脳科学総合研究センター神経 回路メカニズム研究グループ小幡研究ユニッ | 基礎科学 特別研究 | 小脳グロブユラー細胞の局所回路形成への寄与 | 200 |
| 福原 茂朋 | 国立循環器病センター研究所 循環器形態部 | 室長 | アンジオポエチン-1受容体Tie2の空間的・機能的制御とその生理的意義の解明 | 200 |
| 古田 貴寛 | 京都大学大学院医学研究科 高次脳形態学教室 | 助教 | ヒゲ感覚システムにおいて視床から大脳皮質への入力が形成する回路の構造と機能 | 200 |
| 堀 昌平 | 理化学研究所免疫・アレルギー 科学総合研究センター 免疫恒常性研究ユニット | ユニット リーダー | 制御性T細胞分化と機能の分子機構の解明 | 200 |
| 前田 慎 | 朝日生命成人病研究所 消化器科 | 部長 | 大腸癌における恒常的NF-κB活性化の意義と治療への応用 | 200 |
| 松永 英治 | 理化学研究所脳科学総合研究センター知的 脳機能研究グループ生物言語研究チーム | 基礎科学 特別研究 員 | 歌鳥をモデルとした発声学習の分子基盤を探る研究 | 200 |
| 三木 隆司 | 千葉大学大学院医学研究院 自律機能生理学 | 教授 | 視床下部K _{ATP} チャネルによる代謝制御の分子メカニズム | 200 |
| 南本 敬史 | 放射線医学総合研究所分子 イメージング研究センター 分子神経イメージンググループ | 主任 研究員 | 動機付け制御機能におけるサル前頭前野ドーパミンD1およびD2受容体の役割 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|---------------|--|------------------|---|----------|
| 牟田 達史 | 東北大学大学院 生命科学研究所 | 教授 | 転写後制御を介した炎症応答における選択的遺伝子発現機構とその生理的意義 | 200 |
| 村田 喜理 | 東北大学大学院医学系研究科 細胞生理学分野 | 助教 | 血中酸素分圧変化に伴う血管平滑筋収縮における、電依存性Ca ²⁺ チャネルの役割:電位依存性Ca ²⁺ チャネルの酸素感受性の解析 | 200 |
| リチャード ウォング | 金沢大学 フロンティアサイエンス機構 | 特任 准教授 | Nup88の機能と細胞内動態とがんの発症メカニズムの解析 | 200 |
| 和田 はるか | 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 生体機能制御研究部門 | 助教 | 神経軸索変性症の発症機構解明と治療法に関する研究 ー神経・造血・骨異常から探る | 200 |
| 《臨床系研究》 | | | | |
| 池嶋 健一 | 順天堂大学医学部 消化器内科 | 准教授 | 脂肪性肝炎の発症・進展における肝内免疫機構の関与 | 200 |
| 石井 優 | 大阪南医療センター 臨床研究部リウマチ科 | 主任 研究員 | 破骨細胞の遊走・位置の制御に注目した新規の骨吸収性疾患治療薬の開発 | 200 |
| 石黒 和博 | 名古屋大学医学部 消化器疾患病態論寄附講座 | 准教授 | 抗原-抗原提示細胞-炎症の関連を評価できる新しい腸炎モデルの開発とその応用 | 200 |
| 伊藤 量基 | 関西医科大学 内科学第一講座 | 講師 | Imidazoquinolineを用いたアレルギー性疾患治療法の開発 | 200 |
| 今村 裕 | 慶應義塾大学医学部 稲井田記念抗加齢眼科学講座 | 講師 | 加齢黄斑変性のバイオマーカーの検出と眼底自発蛍光を用いた病変の定量化 | 200 |
| 上野 富雄 | 山口大学医学部附属病院 | 助教 | 小腸移植を代用する消化管再生治療法の研究開発 | 200 |
| 太田 英伸 | 東北大学病院 周産母子センター | 助教 | 光受容体メラノプシンを制御する光フィルターを用いた早産児発達障害を予防する人工保育器の開発 | 200 |
| 鏡 雅代 | 国立成育医療センター研究所 小児思春期発育研究部 | 研究員 | ヒト14番染色体インプリンティング異常症発症機序の解明 | 200 |
| 北村 明子 | 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 | 助教 | 家族性自己免疫疾患のゲノムワイド連鎖解析と疾患遺伝子同定 | 200 |
| 工藤 保誠 | 広島大学大学院医歯薬学総合 研究科口腔顎顔面病理病態学 | 助教 | APC/Cユビキチンリガーゼ複合体の活性を抑制するEmi1の異常と癌化との関連 | 200 |
| 小山 信之 | 埼玉医科大学国際医療センター 呼吸器内科 | 講師 | 肺癌におけるEZH2発現解析とEZH2関連因子探索へのゲノムワイドなアプローチ | 200 |
| 雑賀 司珠也 | 和歌山県立医科大学医学部 眼科学講座 | 教授 | 脈絡膜悪性黒色腫の浸潤、遠隔転移でのTGFβ / Smadシグナル、特にSmadリンカー領域リン酸化の役割の研究 | 200 |
| 佐藤 勝重 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究 科細胞生理学分野 | 講師 | 神経活動の術中光学イメージングと切除脳標本の生理学的解析を組み合わせたヒト脳てんかん波伝播パターンの多角的研究 | 200 |
| 高井 大哉 | 東京大学医学部附属病院 検査部 | 講師 | Micro RNAの発現異常とエピジェネティクス異常のクロストークの解明並びに肺がん化学療法最適化 | 200 |
| 高橋 裕 | 神戸大学大学院医学系研究科 内科学講座糖尿病・代謝・ 内分泌内科学分野 | 講師 | 成人GH分泌不全症をモデルとした非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と治療応用 | 200 |
| 高持 一矢 | 順天堂大学 呼吸器外科 | 助教 | ヒト上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異を有する局所進行非小細胞肺癌に対する術前ゲフィチニブ治療後外科切除の認容性試験 | 200 |
| 永石 宇司 | 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 消化管先端治療学 | 助教 | 炎症性腸疾患における腸管粘膜免疫調節機構破綻に対する新規治療法の開発 | 200 |
| 中岡 良和 | 大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 | 特任 助教 | 虚血性心疾患における内皮細胞を介したサイトカインネットワークの機能解明 | 200 |
| 中島 清一 | 大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座消化器外科学 | 助教 | 体表無切開内視鏡手術(Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery: NOTES)における安全・確実な経胃壁ルートの作成・閉鎖法に関する研究 | 200 |
| 中村 隆宏 | 同志社大学 再生医療研究センター | 講師 | 再生医療の実現へ向けてのEGFRシグナルによる角膜上皮幹細胞の恒常性維持機構の解明 | 200 |
| 仁井見 英樹 | 富山大学附属病院 検査部遺伝子検査室 | 助教 検査部 副部長 | 迅速・簡便・安価な敗血症起因菌同定ITシステムの構築 | 200 |
| 橋本 貢士 | 群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学 | 助教 | 新規摂食抑制ホルモンNesfatin-1のシグナル伝達経路の解明 | 200 |
| 藤井 眞一郎 | 理化学研究所免疫・アレルギー 科学総合研究センター免疫細胞 移植戦略研究ユニット | ユニット リーダー | 免疫学的特性を考慮した化学療法と癌免疫療法併用の検討 | 200 |
| 前嶋 明人 | 群馬大学 生体統御内科学 | 助教 | アクチビンを標的分子とした腎不全治療の確立 | 200 |
| 宮本 昌一 | 田附興風会医学研究所北野 病院心臓センター循環器内科 | 副部長 | 血管内ざり応力を介した加速ベッドによる狭心症治療法の開発 | 200 |
| 宮本 敏伸 | 旭川医科大学医学部 産婦人科学講座 | 助教 | ヒト無精子症原因遺伝子群の同定および新たな無精子症原因遺伝子診断法の開発 | 200 |
| 森田 啓行 | 東京大学大学院医学系研究科 22世紀医療センター 健康医科学創造講座 | 特任 准教授 | 重症拡張型心筋症の原因遺伝子変異同定と機序解明 | 200 |
| 柳 重久 | 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野 | 助教 | 肺上皮特異的Pten欠損マウスを用いた肺線維症発症機序の解明と新規治療法の構築 | 200 |
| 山蔭 道明 | 札幌医科大学医学部 麻酔学講座 | 講師 | 気道過敏性先進モデルを用いた麻酔薬の影響と機序の解明 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|---------------------------------------|----|---|----------|
| 山野 嘉久 | 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター ゲノム医科学研究室 | 講師 | HTLV-I 関連脊髄症(HAM)の原因細胞同定に基づく新規抗体療法標的分子の解明に関する研究 | 200 |
| 山本 幸也 | 藤田保健衛生大学医学部 血液内科 | 講師 | 受容体型チロシンキナーゼFLT3中和抗体作製と抗腫瘍活性の検討 | 200 |
| 湯浅 慎介 | 慶應義塾大学医学部 循環器内科 | 助教 | ES細胞およびiPS細胞を用いた心筋再生医療の確立 | 200 |
| 渡邊 智裕 | 京都大学大学院医学研究科 消化器内科学 | 助教 | 自然免疫システムの活性化によるクローン病の新規治療法の開発 | 200 |

2008年度 医学系研究奨励継続助成贈呈者

《基礎系研究》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|-------------------------------|--------------|--|----------|
| 新井 文用 | 慶應義塾大学医学部 発生・分化生物学 | 講師 | 幹細胞ニッチ制御の成立・維持の分子機構 | 300 |
| 高橋 智聡 | 京都大学大学院医学研究科 21世紀COEプログラム | 准教授 | 複合遺伝子変異マウスを用いた発がん・転移メカニズムの解析からヒト癌の理解と克服へ | 300 |
| 田中 元雅 | 理化学研究所脳科学総合研究センター田中 研究ユニット | ユニット リーダー | ポリグルタミン病発症分子機構の解明 | 300 |
| 尾藤 晴彦 | 東京大学大学院医学系研究科 | 准教授 | 単一シナプス内蛋白相互作用の解析と定量 | 300 |
| 古川 貴久 | 大阪バイオサイエンス研究所 発生生物学部門 | 研究 部長 | 網膜視細胞の発生機構の解析と遺伝子網膜疾患の原因遺伝子の同定 | 300 |

《臨床系研究》

| | | | | |
|-------|--|-------------------|--|-----|
| 新井 郷子 | 東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 分子病態医科学部門 | 講師 | 新しいポリコムグループ分子MBT-1による急性白血球治療の開発 | 300 |
| 井上 治久 | 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座臨床神経学 | 助教 | 孤発性筋萎縮性側索硬化症患者神経幹細胞を用いた新規治療法の開発 | 300 |
| 梶島 健治 | 産業医科大学 皮膚科 | 准教授 | 形質細胞の制御による自己免疫疾患克服の試み | 300 |
| 中島 利博 | 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター ゲノム医科学研究部門 | 副センター 長・ 教授 | 小胞体“蛋白分解亢進症”という関節リウマチの新しい疾患概念の提唱 | 300 |
| 彦惣 俊吾 | 大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 | 特任 研究員 | 心筋におけるTNF- α 産生抑制機構の解明と心不全治療への応用 | 300 |
| 丸山 啓介 | 東京大学大学院医学系研究科 脳神経外科 | 助教 | 頭部定位放射線治療計画ソフトウェアへの拡散テンソルトラクトグラフィーの統合システムの開発 | 300 |

2008年度 報彰基金研究奨励継続助成贈呈者

《テーマ:心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|--|------------------|---|----------|
| 足立 健 | 慶應義塾大学医学部 医化学 | 准教授 | メタボリックシンドロームにおける蛋白質チオール修飾の役割 | 300 |
| 石川 義弘 | 横浜市立大学 大学院医学研究科 | 教授 | 心不全治療戦略における分子医学と創薬の融合 | 300 |
| 海老原 健 | 京都大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科 | 特任 講師 | レプチンを用いた新しい糖尿病治療法の開発 | 300 |
| 尾池 雄一 | 熊本大学大学院医学薬学 研究部成育再建・移植医学 講座分子遺伝学 | 教授 | メタボリックシンドロームの治療標的としてのアンジオポエチン様因子ファミリー分子の機能解析 | 300 |
| 奥村 敏 | 横浜市立大学大学院医学 研究科循環制御医学 | 准教授 | 心不全発症における5型アデニル酸シクラーゼの役割と新しい心不全治療薬の開発 | 300 |
| 尾野 亘 | 京都大学大学院医学研究科 循環器内科 | 助教 | レトロウイルス遺伝子破壊法による脂肪細胞分化に必須な新規蛋白の同定-メタボリックシンドロームにおける心血管疾患克服を目指して- | 300 |
| 亀井 康富 | 東京医科歯科大学難治疾患 研究所分子代謝医学分野 | 准教授 | 脂肪細胞とマクロファージの相互作用における核内受容体の抗炎症作用の分子機構の解明と医学応用 | 300 |
| 澤本 和延 | 名古屋市立大学 大学院医学研究科 | 教授 | マウス脳梗塞モデルを用いた薬剤投与によるニューロン再生促進効果の検討 | 300 |
| 鈴間 潔 | 静岡県立総合病院 眼科 | 総括 医長 | 細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の治療法開発 | 300 |
| 高橋 英夫 | 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科薬理学 | 准教授 | 病巣指向性の単クローン抗体による脳梗塞、心筋梗塞およびクモ膜下出血後脳血管攣縮の治療法開発 | 300 |
| 竹石 恭知 | 福島県立医科大学医学部 内科学第一講座 | 教授 | 細胞内脂質代謝と心臓リモデリング:ジアシルグリセロールキナーゼによるGp蛋白共役型受容体シグナルの制御 | 300 |
| 東口 治弘 | 千葉大学大学院医学研究院 糖尿病態医学 | 産学官連 携 研究員 | 心不全発症、進展に関与する遺伝子の検討 12-lipoxygenaseの心臓における役割について | 300 |
| 永井 敏雄 | 千葉大学大学院医学研究院 循環病態医学 | 講師 | 成体心筋幹細胞株の確立と心筋細胞への分化機序および誘導因子の解明 | 300 |
| 中神 啓徳 | 大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学 | 助教 | 新規血管新生遺伝子の画期的スクリーニング法の開発およびその臨床応用 | 300 |
| 西 英一郎 | 京都大学大学院医学研究科 内科学講座循環器内科学 | 産学官連 携 准教授 | 膜結合型増殖因子のシェディングの調節メカニズムの解明と心血管疾患治療への応用 | 300 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|----------------------------|-------|--|----------|
| 範江林 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部分子病理学講座 | 教授 | 動脈硬化の発生及び進展におけるC反応性蛋白の役割ー遺伝子改変ウサギモデルを用いた研究 | 300 |
| 前島 洋平 | 岡山大学医学部歯学部附属病院腎臓・糖尿病・内分泌内科 | 講師 | 血管新生抑制因子による糖尿病性腎症治療効果及び作用機序の検討 | 300 |
| 益崎 裕章 | 京都大学大学院医学研究科内分泌代謝内科 | 助教 | 糖尿病、動脈硬化の基盤病態としてのメタボリックシンドロームに対する新規の診断法、治療法の開発研究 | 300 |
| 松村 剛 | 熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科 | 医員 | スタチンによる新規動脈硬化抑制機序の解明ーマクロファージPPAR γ 活性誘導効果の意義 | 300 |
| 南 敬 | 東京大学先端科学技術研究センターシステム生物医学 | 特任准教授 | 血管内皮細胞のトランスクリプトーム解析及びNF- κ B/DSCR-1 feedback systemの解明に基づく抗血管疾患(動脈硬化)治療への応用 | 300 |
| 森本 達也 | 京都医療センター展開医療研究部 | 主任研究員 | ES細胞を用いた心筋細胞分化における心筋特異的GATA4コンプレックスの精製 | 300 |
| 和田 隆志 | 金沢大学大学院医学系研究科血液情報統御学 | 教授 | 糖尿病性臓器合併症の進展にはたす骨髄由来間葉系細胞の意義 | 300 |

2008年度 報彰基金研究奨励贈呈者

《テーマ:心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|-------------------------------|------------|--|----------|
| 浅野 知一郎 | 広島大学大学院医歯薬学総合研究科探索医科学講座医化学教室 | 教授 | Prolyl isomerase (Pin1)の代謝調節における役割とインスリン抵抗性への関与 | 200 |
| 石上 友章 | 横浜市立大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学 | 准教授 | 心腎ナトリウムチャンネルに共通する抑制因子Nedd4Lの分子病態に着目した、心血管病の成因の解明 | 200 |
| 井上 啓 | 金沢大学フロンティアサイエンス機構 | 特任准教授 | 新規肝糖脂質代謝制御メカニズムの解明 | 500 |
| 岩永 善高 | 近畿大学医学部循環器内科 | 講師 | 慢性心不全と慢性腎臓病、新規共通分子メカニズムの解明 | 200 |
| 上野 修市 | 自治医科大学内科学講座循環器内科部門 | 病院助教 | マウス胚性幹細胞を用いた、効率の良い新たな心筋細胞への分化誘導法の開発 | 200 |
| 大澤 春彦 | 愛媛大学大学院医学系研究科分子遺伝制御内科学 | 准教授 | サイトカイン関連遺伝子のプロモーターSNPを標的とする2型糖尿病感受性遺伝子の体系的同定 | 200 |
| 太田 嗣人 | 金沢大学フロンティアサイエンス機構 | 特任助教 | 肝栄養代謝における小胞体ストレス応答の分子機構解明 | 200 |
| 甲斐 久史 | 久留米大学医学部内科心臓・血管内科 | 准教授 | 可溶性インターフェロン γ 受容体を用いた次世代コーティングステントの開発ー完全生体吸収型コーティングステントへの応用ー | 200 |
| 北村 ゆかり | 群馬大学生体調節研究所代謝シグナル解析分野 | COE研究員 | 膵 β 細胞における糖、脂肪毒性発症メカニズムの解明ー転写因子FoxO1の関わりを中心にー | 200 |
| 小島 淳 | 熊本大学大学院医学薬学研究部生体機能病態学講座循環器病態学 | 助教 | 冠動脈内超音波(IVUS)Virtual Histologyを用いた各種病態における冠動脈疾患患者の冠動脈プラークの質的性状の評価および治療や大規模臨床研究への臨床応用に関する検討 | 200 |
| 後藤 知己 | 熊本大学大学院医学薬学研究部分子遺伝学分野 | 講師 | 小胞体ストレス経路の動脈硬化病態への関与 | 200 |
| 小林 茂樹 | 山口大学医学部附属病院 | 助教 | 細胞内カルシウム放出制御による新しい心不全・不整脈治療法の開発 | 200 |
| 阪上 浩 | 近畿大学医学部薬理学教室 | 講師 | 糖尿病発症における新規アディポサイトカインMFG-E8の病態生理学的意義の解明 | 200 |
| 坂根 郁夫 | 札幌医科大学医学部生化学第二講座 | 准教授 | ジアシルグリセロールキナーゼ δ によるインスリン抵抗性・2型糖尿病増悪化制御の分子機構 | 200 |
| 下畑 享良 | 新潟大学脳研究所神経内科 | 准教授 | 脳梗塞に対する新規標的分子としてのprogranulinの検討 | 200 |
| 白鳥 行大 | 東京理科大学生命科学研究所分子生物学研究部門 | 助教 | I型糖尿病疾患感受性遺伝子KIAA0350のリガンド探索 | 200 |
| 菅波 孝祥 | 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野 | 助教 | 新規炎症抑制性転写因子ATF3のメタボリックシンドロームにおける病態生理的意義の解明 | 200 |
| 関谷 元博 | 東京大学医学部附属病院糖尿病代謝内科 | 医員 | マクロファージにおける中性コレステロールエステラーゼの解析を介した動脈硬化メカニズムの解明および治療法への発展 | 200 |
| 千本松 孝明 | 埼玉医科大学薬理学 | 准教授 | レニンアンジオテンシンシステム(RAS)を形成する膜一回貫通型蛋白群の機能解析 | 200 |
| 高木 正稔 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学 | 助教 | 糖代謝および脂肪細胞分化過程におけるATMの役割に関する研究 | 200 |
| 竹内 純 | 東京工業大学グローバルエッジ研究院 | 特任助教 | 染色体再構成因子群による心臓分化誘導メカニズムの研究 | 500 |
| 竹森 洋 | 医薬基盤研究所基盤的研究部 | プロジェクトリーダー | 肥満後の摂食調節機構に関する研究 | 200 |
| 武谷 立 | 九州大学生体防御医学研究所 | 助教 | 心筋における筋原繊維形成のためのアクチン重合機構の解明 | 200 |
| 中川 修 | 奈良県立医科大学先端医学研究機構 | 教授 | 転写調節因子複合体の循環器疾患の成因における意義 | 500 |
| 中山 晋介 | 名古屋大学大学院医学系研究科 | 准教授 | 糖尿病性消化管運動障害とカハール間質細胞ネットワーク機能 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-----------------------|-------------------------------|-------|---|----------|
| 平野 勝也 | 九州大学大学院医学研究院 分子細胞情報学分野 | 准教授 | くも膜下出血後脳血管攣縮の分子機構解明と新たな予防・治療法の開発 | 200 |
| 平橋 淳一 | 東京大学医学部附属病院 腎臓内分泌内科 | 助教 | 自己免疫性血管炎および腎炎の新しい治療法の開発 | 200 |
| 堀内 久徳 | 京都大学大学院医学研究科 循環器内科 | 講師 | 活性化血小板における濃染顆粒放出制御メカニズムの解明 | 500 |
| 松岡 孝昭 | 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学講座 | 特任助教 | 2型糖尿病における膵β細胞機能障害の解析 | 200 |
| 松本 道宏 | 神戸大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝・内分泌内科 | 医学研究員 | 肥満・インスリン抵抗性の惹起・進展における脂肪組織インスリン作用過剰の役割の解明 | 500 |
| マツラナ アンドレス ダニエル | 東京工業大学 グローバルエッジ研究院 | 特任助教 | Enigma Homolog splice variants either promoting or antagonizing the development of cardiac diseases | 200 |
| 安田 修 | 大阪大学大学院医学系研究科 老年・腎臓内科学 | 助教 | 心血管疾患発症における新規アポトーシス誘導因子 Apopの役割の解明 | 200 |

2008年度 薬学系研究奨励贈呈者
《薬学》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|--|---------|--|----------|
| 青山 浩 | 大阪大学大学院薬学研究科 | 准教授 | マウス由来GDEファミリーの機能構造解析 | 200 |
| 大脇 敏之 | 東京理科大学薬学部 生命創薬科学科 | 助教 | フィブロネクチン由来反接着性ペプチドFNIII14と抗癌剤を併用した造血管悪性腫瘍の根絶治療法の確立 | 200 |
| 奥野 恭史 | 京都大学大学院薬学研究科 統合薬学フロンティア教育 センター統合薬学教育開発分野 | 准教授 | ケミカルゲノミクスに基づく超多次元構造活性相関解析法の開発 | 200 |
| 奥平 桂一郎 | 国立医薬品食品衛生研究所 機能生化学部 | 研究員 | HDL上昇薬開発を目的とした新しいABCA1発現制御メカニズムの研究 | 200 |
| 尾崎 恵一 | 長崎大学大学院医歯薬学総合 研究科生命薬科学 | 准教授 | ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤による制がん作用発現の分子機構解明とそのがん治療への応用 | 200 |
| 長田 茂宏 | 名古屋市立大学大学院薬学 研究科分子生物薬学分野 | 准教授 | 生体防御および細胞がん化におけるMYSTアセチル化酵素ファミリーの役割の解明 | 200 |
| 紙谷 浩之 | 北海道大学大学院薬学研究院 | 准教授 | 活性酸素により生ずるヌクレオチド損傷体の複製・転写への影響の解明 | 200 |
| 岸本 泰司 | 徳島文理大学香川薬学部 | 助教 | 記憶障害改善を志向した内在性カンナビノイド受容体シグナリングの機能解明 | 200 |
| 木下 恵美子 | 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 | 助教 | ハイスループットなキナーゼプロファイリングのための高精度蛍光センサーの開発 | 200 |
| 久保田 隆廣 | 千葉科学大学薬学部 | 准教授 | Cytochrome P450 2D6 (CYP2D6), P450 3A4/5 (CYP3A4/5) およびSulfotransferase 1A1 (SULT1A1) 遺伝子多型解析に基づく抗がん剤 tamoxifenの適正使用 | 200 |
| 栗生 俊彦 | 徳島文理大学香川薬学部 | 助教 | 分子動態イメージング法を用いた抑制性シナプス制御機構の解明と創薬への応用 | 200 |
| 後藤 貴章 | 東北大学大学院薬学研究科 | 助教 | 創薬研究への応用を目的とした代謝活性化リスク評価系の開発 | 200 |
| 櫻井 宏明 | 富山大学 和漢医薬学総合研究所 | 准教授 | リンパ球発がんにおけるTAK1シグナルの果たす役割 | 200 |
| 重永 章 | 徳島大学大学院ヘルス バイオサイエンス研究部薬学系 | 助教 | シャトルペプチドを基盤とした疾患関連タンパク質核外排出システムの開発 | 200 |
| 嶋澤 雅光 | 岐阜薬科大学 生体機能分子学講座 | 准教授 | 緑内障による網膜神経節細胞死における小胞体ストレス機構の解明 | 200 |
| 新藤 充 | 九州大学 先端物質化学研究所 | 准教授 | アポトーシスの制御を指向した膜タンパク質多点認識型リン脂質コンジュゲートの開発 | 200 |
| 須原 義智 | 神戸薬科大学 衛生化学研究室 | 講師 | 脳神経変性疾患治療薬を目指したリード化合物の創製 | 200 |
| 高原 章 | 東邦大学 薬学部 | 准教授 | 肺静脈起源による心房細動の発生メカニズム解明と新規心房細動治療薬への応用 | 200 |
| 恒枝 宏史 | 富山大学大学院医学薬学 研究部病態制御薬理学 | 准教授 | 全身性メタボリック調節における視床下部オレキシン神経系の役割の解明 | 200 |
| 寺田 智祐 | 京都大学医学部附属病院 薬剤部 | 副薬剤部長 | 肝疾患時におけるヒト肝薬物トランスポーター発現変動機構の解明と薬物治療への応用 | 200 |
| 中川 秀彦 | 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 | 准教授 | 多光子吸収過程で作動する新規な光制御型一酸化窒素ドナーの開発 | 200 |
| 中島 美紀 | 金沢大学薬学部 | 准教授 | 乳癌の治療・予防を目指したビタミンD3不活性化酵素 CYP24のmicroRNAによる発現制御の研究 | 200 |
| 張 功幸 | 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 | 助教 | トリメチルシリルジアゾメタンを用いた非天然型アミノ酸の合成 | 200 |
| 東 伸昭 | 東京大学大学院薬学系研究科 | 准教授 | ヘパリン低分子化を介したマスト細胞の機能調節 | 200 |
| 藤森 功 | 大阪薬科大学薬学部 | 講師 | 間葉系幹細胞から骨芽・脂肪細胞への分化における脂質メダエーターの機能解明 | 200 |
| 眞鍋 敬 | 理化学研究所 眞鍋独立主幹研究ユニット | 独立主幹研究員 | 新規オリゴアレン型触媒を用いる位置選択的炭素-炭素結合形成反応の開発 | 200 |
| 萬谷 博 | 東京都老人総合研究所 | 研究員 | 神経-筋疾患の薬物治療への応用を目指した蛋白質O-マンノシル化機構の解析 | 200 |
| 溝口 広一 | 東北薬科大学薬学部 | 准教授 | 多発性硬化症疼痛のメカニズムの解明ならびにその特効薬の開発 | 200 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|------------------------------------|----------|---|----------|
| 三宅 歩 | 京都大学大学院薬学研究科 生命薬科学専攻遺伝子薬学 分野 | 講師 | GABA及びドパミン作動性ニューロンの発生機構におけるFGFの役割の解明と神経変性疾患治療への応用 | 200 |
| 山本 幸男 | 東京医科歯科大学難治疾患 研究所MTTプログラム | 特任 講師 | 核内受容体ER α とCARの活性化バランスによる肝脂質代謝 制御の分子機構 | 200 |

《 生 薬 学 》

| | | | | |
|-------|---------------------------|-----|---|-----|
| 伊東 秀之 | 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 | 准教授 | 海馬神経細胞突起伸張活性物質をプローブとした認知症予防 に寄与する天然薬物の探索研究 | 200 |
| 宇都 拓洋 | 長崎国際大学薬学部 | 助手 | ジンセノシド特異的抗体を用いた薬用人参の作用分子メカニ ズム解明 | 200 |
| 大槻 崇 | 千葉大学大学院薬学研究科 活性構造化学研究室 | 助教 | 腫瘍選択的なアポトーシスを増強する天然医薬シーズの探索と その作用機序の解析 | 200 |
| 掛谷 秀昭 | 京都大学大学院薬学研究科 | 教授 | 有用微生物代謝産物の生合成に関するケミカルバイオロジー 研究 | 200 |
| 谷口 抄子 | 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科薬学系 | 助教 | 植物におけるタンニンの分布と構成成分の構造の違いを考慮 した定量的評価 | 200 |
| 津田 正史 | 高知大学 海洋コア総合研究センター | 教授 | 海産渦鞭毛藻由来の抗腫瘍性物質の探索と開発 | 200 |
| 寺坂 和祥 | 名古屋市立大学大学院 薬学研究科生薬学分野 | 助教 | 薬用植物ゲノムを利用した二次代謝糖転移酵素遺伝子のク ローニングと機能解析 | 200 |
| 西田 浩志 | 新潟薬科大学 応用生命科学部 | 助教 | シサンドリンBによるDNA損傷チェックポイント阻害を介したガ ン治療増感作用に関する研究 | 200 |
| 松浪 勝義 | 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 | 講師 | マダガスカル産の稀な薬用植物の先端化学的解析 | 200 |
| 宮下 裕幸 | 熊本大学大学院医学薬学 研究部天然薬物学分野 | 助教 | トマト新規配糖体の健康科学への応用 | 200 |

2008年度 薬学系研究奨励継続助成贈呈者

《 薬 学 》

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|----------------------------|-----|---|----------|
| 倉永 英里奈 | 東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室 | 講師 | がん細胞の生存を規定するIAP分解制御機構の遺伝学的解 明 | 300 |
| 近藤 昌夫 | 大阪大学大学院薬学研究科 生体機能分子化学分野 | 准教授 | Claudin modulatorを用いた新規薬物送達方法の開発 | 300 |
| 田熊 一徹 | 大阪大学大学院薬学研究科 | 准教授 | Alzheimer病発症に関わるアミロイド β 蛋白の細胞内輸送経 路の解明 | 300 |
| 藤田 直也 | 癌研究会癌化学療法センター 基礎研究部 | 部長 | 新規血小板凝集促進因子Aggrusの機能制御 | 300 |
| 藤室 雅弘 | 北海道大学大学院薬学研究科 生化学 | 助教 | カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスの病原性発現機構 | 300 |

2008年度 杏雨書屋研究奨励贈呈者

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|--------|------------------|------------|---|----------|
| 海原 亮 | 住友史料館 | 研究員 | 近世・近代移行期における眼科学統の特質に関する研究 | 50 |
| 香西 豊子 | 順天堂大学 | 研究生 | 池田痘科の生成と学理に関する総合的研究 ——杏雨書屋所蔵の関連書籍の分析を通じて | 50 |
| 竹中 梨紗 | 京都大学大学院人間・環境学研究科 | 院生 | 十九世紀後半日露植物学交流史の研究 ——C.J.マクシモヴィッチをめぐる | 50 |
| 丸山 裕美子 | 愛知県立大学 | 教授 | 江戸時代の律令学—医疾令復原研究を中心に— | 50 |
| 熱 美保子 | 関西大学東西学術研究所 | 非常勤 研究員 | 本草書にみられる近世日本の輸入「唐薬種」 | 50 |

2008年度 シンポジウム研究奨励贈呈者

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|---------------------|---------------------------------------|-------------|---|----------|
| 一色 隼人 | 東京大学大学院薬学系研究科 臨床薬学教室 | 大学院生 | Identification and Analysis of A Substrate-specific Genetic Modulator for γ -secretase Activity | 50 |
| Douglas S. Campbell | 理化学研究所 | 国際特別 研究員 | Regulation of Axonal Arbor and Synaptic Dynamics: A Non- apoptotic Role for Caspase 3 | 50 |
| 斉藤 貴志 | 理化学研究所 脳科学総合研究センター 神経蛋白質制御研究チーム | 常勤 研究員 | The Biological Effects of R2781-Presenilin-1 Mutation on γ - secretase Activity and Amyloid Pathology | 50 |
| 殿城 亜矢子 | 東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室 | 大学院生 | Genetic Evidence Linking Age-dependent Attenuation of The 26S Proteasome with Age-related Neurodegenerative Diseases | 50 |

2008年度 高等学校理科教育振興奨励贈呈者

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額(万円) |
|-------|------------------|----|-----------------------------|----------|
| 明仁 憲一 | 大阪府立泉尾高等学校 理科 | 教諭 | 化学・生物分野における環境教育に関する教材の開発と配布 | 30 |

| 氏名 | 所属機関 | 職位 | 研究題目 | 交付金額 (万円) |
|-------|----------------------------|-----------|---|--------------|
| 足立 敏 | 愛知教育大学附属高等学校 理科 | 主幹 教諭 | 教室で行うマイクロスケール実験の開発 ー実験目的の明確化と実験方法の確立ー | 30 |
| 天野 耕二 | 静岡県立掛川東高等学校 理科 | 教諭 | 失われた和紙づくり全工程の再現実習と体験学習プログラム ～1枚の口述筆記文から、地元和紙の再生を試みる～ | 30 |
| 池田 育浩 | 神戸女学院中学部・高等学部 理科 化学 | 教諭 | 人工イクラの直接分光測定法の開発と化学平衡実験への応用 | 30 |
| 小田 裕 | 福岡県立鞍手高等学校 理科 化学 | 教諭 | 筑豊地区の「赤水」の調査と環境改善に関する研究 | 30 |
| 加藤 克美 | 千葉県立佐原白楊高等学校 理科 化学 | 教諭 | 『モノづくり授業』の開発、および、植物染料と薬用植物の構造的 関連性の研究 | 30 |
| 嘉村 均 | 神奈川県立希望ヶ丘高等学校 理科 情報科 | 教諭 | 効果的な演習実験の開発に関する研究 ～溶液反応の教材化を中心として～ | 30 |
| 川上 靖 | 鳥取県立博物館 学芸課自然担当 生物 | 副主幹 | フキバッタの地理的変異とその教材化に関する研究 | 30 |
| 北川 雅直 | 広島県立安古市高等学校 理科 化学 | 教諭 | 明治、大正、昭和初期の化学教育における化学実験の調査研 究とその高校化学教育への応用 | 30 |
| 紀室 治 | 八戸工業大学第二高等学校 理科 生物 | 教諭 | 青森県の自然と施設を題材とした環境教育の実践 ～北八甲田山系と白神山地を中心として～ | 30 |
| 小滝 藍 | 埼玉県立蕨高等学校 理科 生物 | 教諭 | マウスの標本教材の作成と活用 | 30 |
| 後藤 顕一 | 埼玉県教育局高等教育指導課 化学 | 指導 主事 | 「持続可能性な開発」を目指し実験内容を高度化する高等学 校化学有機化学実験パッケージ | 30 |
| 小林 弥吉 | 横浜市立戸塚高等学校 理科 | 教諭 | 食糧の安定供給と安全性に対する考察(教育目的遺伝子組換 え実験よりのアプローチ) | 30 |
| 小松 寛 | 東京大学教育学部附属 中等教育学校 理科 化学 | 教諭 | 探究的な課題で創る無機・有機のカリキュラム開発 | 30 |
| 佐藤 輝夫 | 北海道札幌平岸高等学校 理科 生物 | 教諭 | 海外帰化した海藻種の生存戦略の検証実験とその教材化と授 業実践 | 30 |
| 鈴木 良孝 | 栃木県立宇都宮工業高等学校 土木科 | 教諭 | 炭素繊維を用いた河川水質浄化の実践 | 30 |
| 高橋 匡之 | 岩手県立水沢高等学校 理科 化学 | 教頭 | 教科通信は、生徒の理科(化学)に対する興味関心を高めるの に有効である | 30 |
| 田村 統 | 兵庫県立大学附属高等学校 理科 生物 | 教諭 | 地域の絶滅危惧種を教材化するための基礎的研究 | 30 |
| 徳里 政哉 | 沖縄県立豊見城高等学校 生物 | 教諭 | サンゴを対象とした教材化の検討 | 30 |
| 中井 一郎 | 大阪教育大学附属高等学校 池田校舎 理科 生物 | 教諭 | 高校生による指標生物調査を通してみる大阪府の河川環境の 推移 | 30 |
| 肥田 宗友 | 秋田県立大館鳳鳴高等学校 生物 | 教諭 | DNAレベルでのヒトの理解とそのための教材の開発 | 30 |
| 古本 大 | 同志社香里高等学校 理科 生物 | 教諭 | 高校生・高校理科教師による大阪府下の指標生物調査 | 30 |
| 水木 正志 | 山口県立岩国高等学校 理科 | 教諭 | 生徒の興味・関心を引き出す実験 ーブタの眼球と内臓を用いてー | 30 |
| 武藤 紘成 | 熊本県立南関高等学校 理科 化学 | 非常勤 講師 | ダニエル電池の小型化に伴い水溶液の濃度差が電気エネル ギーを発生することを検証する演習実験装置の開発 | 30 |
| 望月 基希 | 静岡県立静岡農業高等学校 農業 | 教諭 | 「光触媒」を活用した新たな施設園芸技術の開発と導入 | 30 |
| 盛合 浩司 | 富山県立砺波高等学校 理科 生物 | 教諭 | 富山県の河川に遡上するシロサケ集団のDNA解析の実践 | 30 |
| 矢野 幸洋 | 奈良女子大学附属 中等教育学校 理科 | 教諭 | ゲノムテラシーを育成するカリキュラムの開発 ーDNA抽出実験を手がかりにしてー | 30 |

2008年度 報彰基金研究会等の開催支援交付対象

《心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病に関する研究会等》

| 氏名 | 所属機関 | 研究会の名称 | 交付金額 (万円) |
|------|------------------|----------------------|--------------|
| 並河 徹 | 島根大学医学部 病態病理学 | 第44回高血圧関連疾患モデル学会学術総会 | 100 |

2008年度外国人留学研究者の明細

2009/3/31現在

(来日ベース)

| 氏 名 | 所 属 職 位 | 研 究 機 関 |
|---------------------------|--|--------------------------------|
| 台 湾 | | |
| 梁 昭鉉(Liang Jao-Shwann) | 亜東紀念病院 小児科 医師 | 東京女子医科大学 循環器小児科 |
| 許 景盛(Hsu Ching-Sheng) | 慈濟醫院台北分院 Gastroenterology主治医師 | 広島大学大学院 分子病態制御内科学 |
| 林 明毅(Lin Ming-Yee) | 高雄榮民總醫院 耳鼻咽喉科 主治医師 | 北海道大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 陳 雅惠(Chen Ya-Hui) | 高雄榮民總醫院 皮膚科 主治医師 | 北海道大学大学院 医学部 皮膚科 |
| 趙 安怡(Chao An-Yi) | 台湾大学附設醫院 麻醉科 主治医師 | 大阪大学大学院医学系研究科 麻醉集中治療医学講座 |
| 藍 偉仁(Lan Wei-Ren) | 馬偕紀念醫院 心臟内科 主治医師 | 国立循環器病センター 心臓血管内科 |
| 林 佳濱(Lin Chia-Pin) | 林口長庚紀念醫院 心臟内科 主治医師 | 倉敷中央病院循環器科 湘南鎌倉総合病院循環器科 |
| 小 計 | 7名 | |
| タ イ | | |
| Ake-Chittra Sukkul | Makarak病院 内科 医師 | 新潟大学大学院 第二内科 |
| Pornpit Treebupachatsakul | Budhachinnaraj病院 内科 医師 | 新潟大学大学院 第二内科 |
| Natnicha Kanlop | Chiang Mai大学医学部 生理学 | 琉球大学医学部 生理学第二分野 |
| Amporn Thongphut | Hatyai病院 麻酔科 医師 | 順天堂大学大学院 麻酔科 |
| Sakchai Ruangsinn | Prince of Songkla大学 外科 医師 | 国立がんセンター中央病院 肝胆膵外科グループ |
| Jitti Hanprasertpong | Prince of Songkla大学 産婦人科 医師 | 埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 |
| 小 計 | 6名 | |
| フィリピン | | |
| Mariam Grace A. Delima | Uniformed Services University of the Health Sciences in USA, 外科医師 | 国立がんセンター中央病院 呼吸器外科グループ |
| Carter S. Rabo | Santo Tomas大学病院研修終了 | 大阪大学医学部 脳神経外科 |
| 小 計 | 2名 | |
| 韓 国 | | |
| Il Gyu Kong | Seoul 国立大学医学部 耳鼻咽喉科、臨床講師 | 東京大学医科学研究所 感染・免疫大部門 |
| Yeonyee E. Yoon | Seoul 国立大学医学部 循環器内科、臨床講師 | 三重大学病院 中央放射線部 |
| 小 計 | 2名 | |
| 中 国 | | |
| 劉 昇鋒(Liu Shengfeng) | 湖南省人民醫院 普外科 副主任 | 岡山大学大学院医歯薬学総合 研究科 消化器・腫瘍外科学 |
| 崔 竹梅(Cui Zhumei) | 青島大学医学院附属医院 産婦人科 主任 | 東京医科大学大学院医学研究科 産科婦人科学 |
| 陳 慶寧(Chen Qingning) | 雲南省第一人民醫院 皮膚性病科 主治医師 | 杏林大学医学部 皮膚科学 |
| 常 桂娟(Chang Guijuan) | 新疆ウイグル自治区人民醫院 高血圧科 副主任 | 横浜労災病院 内科 |
| 楊 瑞(Yang Rui) | 河南省胸科醫院 影像科 主任 | 京都大学大学院医学研究科 画像診断学・核医学講座 |
| 李 樂翔(Li Lexiang) | 福建省腫瘤醫院 放射治療科 医師 | 兵庫医科大学 放射線医学教室 |
| 李 博(Li Bo) | 山東省千佛山醫院 放射治療科 医師 | 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学 |

| 氏名 | 所 属 職 位 | 研究機関 |
|--------------------|-------------------------------|----------------------------|
| 李 漢華(Li Hanhua) | 四川省人民医院 消化内科 主治医師 | 京都大学大学院医学研究科 消化器内科 |
| 李 啓勇(Li Qiyong) | 浙江大学附属第一医院 肝胆膝外科 医師 | 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科 |
| 鐘 寧(Zhong Ning) | 山東大学齐鲁医院 消化器内科 副教授 | 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科 |
| 陳 申傑(Chen Shenjie) | 浙江省中医药大学附属第一医院 心血管科医師 | 済生会横浜市東部病院 循環器内科 |
| 王 国付(Wang Guofu) | 浙江医院 呼吸科 副主任 | 国立がんセンター中央病院 呼吸器内視鏡グループ |
| 張 青(Zhang Qing) | 西安交通大学第二附属医院 耳鼻咽喉頭頸外科 主治医師 | 国立東京医療センター・ 感覚器センター |
| 李 進東(Li Jindong) | 河南省腫瘤医院 胸外科 医師 | 国立がんセンター中央病院 呼吸器外科グループ |
| 小 計 | 14名 | |

インドネシア

| | | |
|---------------------------|---|----------------------------|
| Dicky Soehardiman | インドネシア大学医学部 Dept of Respiratory Medicine | 聖マリアンナ医科大学 呼吸器・感染症内科 |
| Maria Mexitalia Setiawati | Diponegoro大学 Dept. of Child Health | 東京大学大学院 理学部人類科学大講座 |
| Susy Purnawati | Udayana大学 生理学 | 産業医科大学産業生態科学研究所 人間工学研究室 |
| Ni Retno Setyoningrum | インドネシア大学医学部 眼科 医師 | 順天堂大学 眼科 |
| Hirawati Ali | Andalas大学 Dept. of Biochemistry | 神戸大学大学院医学系研究科 循環器内科学 |
| 小 計 | 5名 | |

ベトナム

| | | |
|----------------------|---|------------------------|
| Phan Thi Minh Ngoc | ハノイ医科大学 Dept of Physiology、講師 | 金沢医科大学医学部 公衆衛生学 |
| Tran Vi Phuong | University Training Center Dept. of Anesthesiology | 浜松医科大学医学部 麻酔・蘇生学講座 |
| Nguyen Le Trung Hieu | Medical University Center Neurology Dept. | 徳島大学大学院医学研究科 神経情報医学 |
| Pham Thi Kim Lan | E Hospital 循環器科 医師 | 大分大学 臨床検査・診断学講座 |
| 小 計 | 4名 | |

その他

| | | |
|--|-----------------------|-----------------------------|
| Hamady Dieng (セネガル) | Zhejiang大学 ポストドクター | 福岡大学薬学部 微生物薬品化学 |
| Maximiliano L. Suster Milgram (ベネズエラ) | 国立遺伝学研究所 | 国立遺伝学研究所 初期発生部門 |
| Kadir Demircan (トルコ) | 岡山大学分子医化学 | 岡山大学大学院医歯薬学総合 研究系, 分子医化学 |
| 小 計 | 3名 | |
| 合 計 | 43名 | |